

2-4 第2号被保険者調査

(1) ご本人について

①調査票の記入者

<図表214> 調査票の記入者

調査数	調査票の記入者			
	本人	家族	その他	無回答
621	572	26	2	21

②現在の状況

<図表215> 現在の状況（本人の不在の事情）

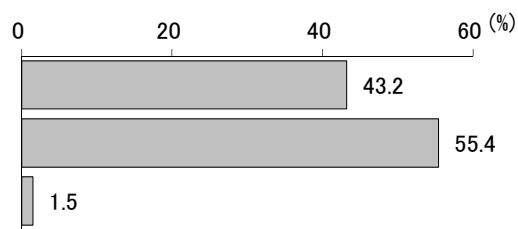
調査数	現在の状況（本人の不在の事情）					左記に該当しない
	医療機関 に入院中	福祉施設 に入所中	転居	死亡	その他	
621	-	1	-	-	4	616

以下、616人に対する集計結果を示す。

③性別

<図表216> 性別

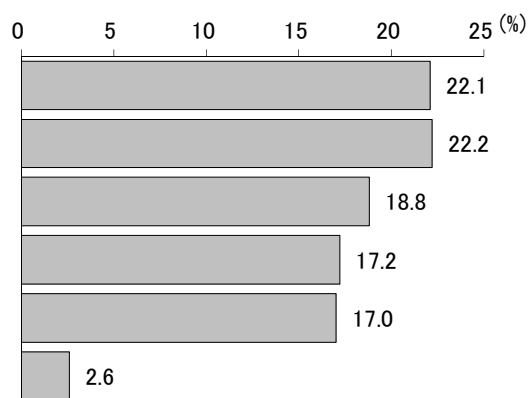
	基数	構成比
男性	266	43.2%
女性	341	55.4%
無回答	9	1.5%



④年齢

<図表217> 年齢

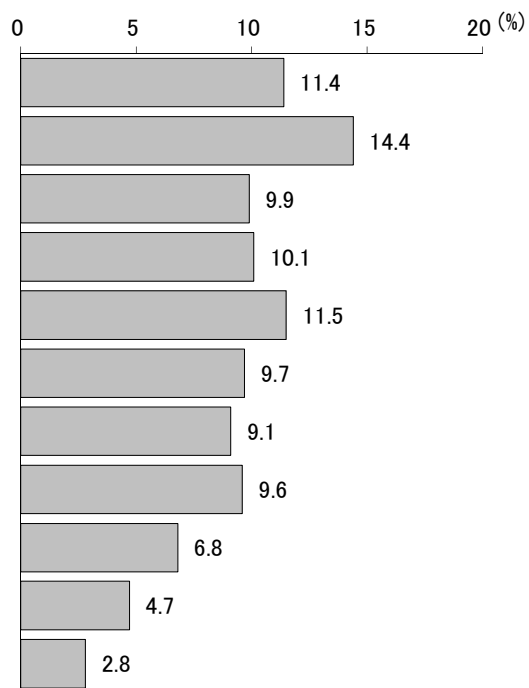
	基数	構成比
40歳～44歳	136	22.1%
45歳～49歳	137	22.2%
50歳～54歳	116	18.8%
55歳～59歳	106	17.2%
60歳～64歳	105	17.0%
無回答	16	2.6%



⑤お住まいの地区

<図表218> お住まいの地区

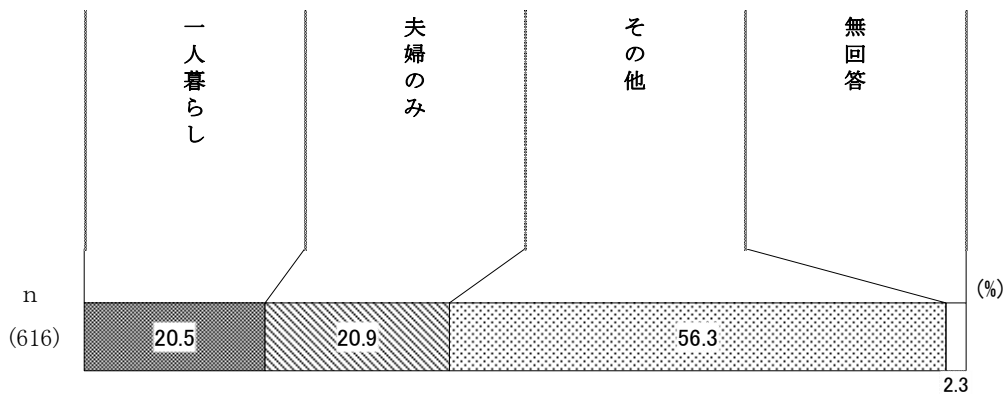
	基数	構成比
四谷	70	11.4%
簗笥町	89	14.4%
榎町	61	9.9%
若松町	62	10.1%
大久保	71	11.5%
戸塚	60	9.7%
落合第一	56	9.1%
落合第二	59	9.6%
柏木	42	6.8%
角筈	29	4.7%
無回答	17	2.8%



⑥世帯構成

問4 あなたの世帯の構成をお選びください。(1つに○)

<図表219> 世帯構成

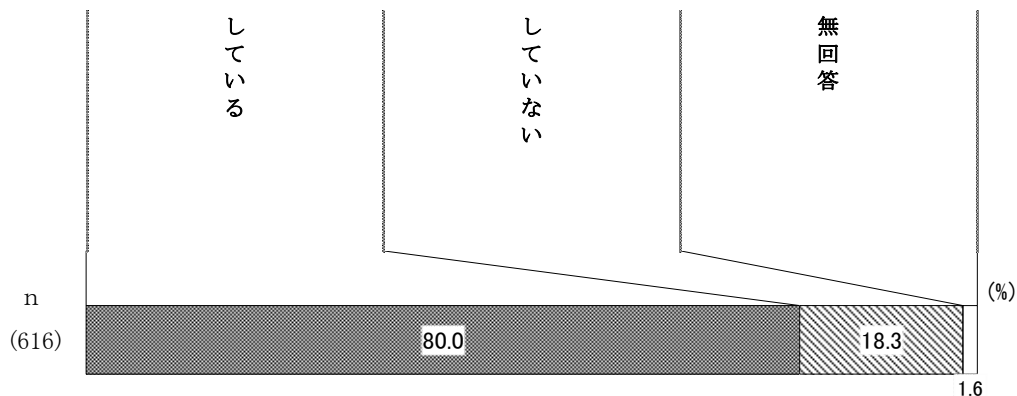


世帯構成をたずねたところ、「一人暮らし」(20.5%)、「夫婦のみ」(20.9%)はそれぞれ約2割となっている。

⑦就業状況

問5 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

<図表220> 就業状況

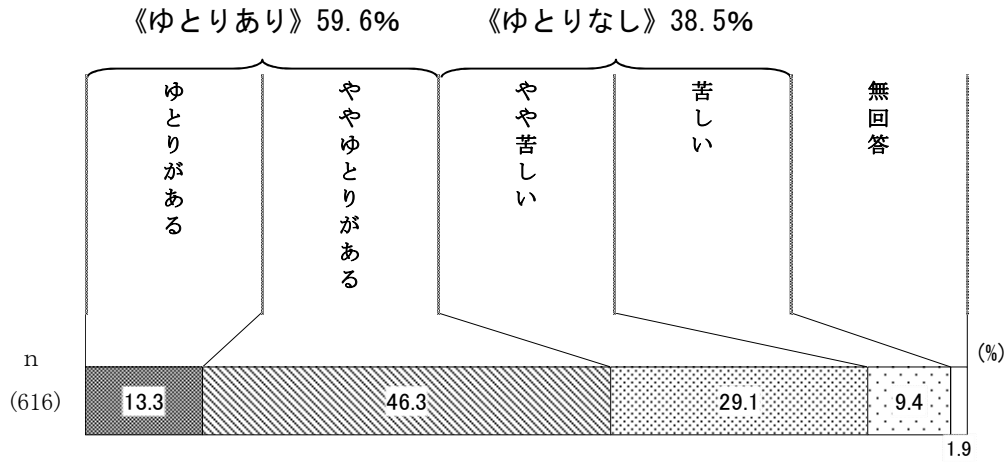


就業状況をたずねたところ、収入のある仕事を「している」(80.0%)は8割、「していない」(18.3%)は2割近くとなっている。

⑧現在の暮らし向き

問6 あなたは、現在のご自身の暮らし向きをどのように感じていますか。(1つに○)

<図表221> 現在の暮らし向き

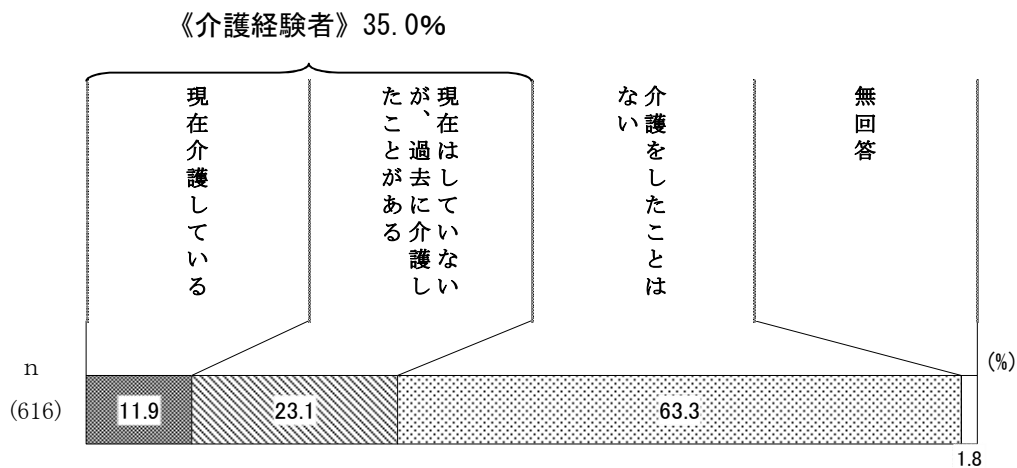


現在の暮らし向きについてたずねたところ、「ゆとりがある」(13.3%)と「ややゆとりがある」(46.3%)をあわせた《ゆとりあり》は59.6%となっている。

⑨家族等の高齢者の介護の経験

問7 あなたは、ご家族等の高齢者の介護をしたことがありますか。(1つに○)

<図表222> 家族等の高齢者の介護の経験



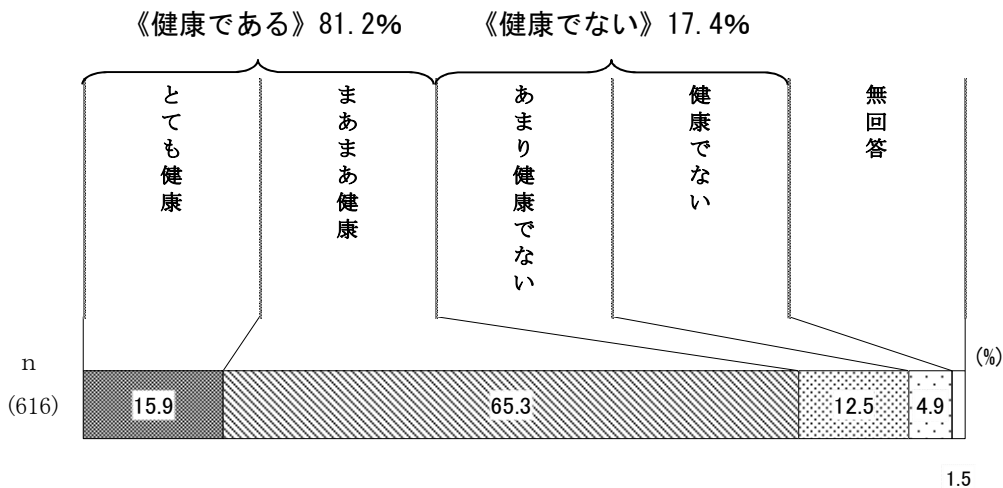
家族等の高齢者の介護経験をたずねたところ、「現在介護している」(11.9%)と「現在はないが、過去に介護したことがある」(23.1%)をあわせた《介護経験者》は35.0%となっている。

(2) 健康状態や健康づくり等について

①健康状態

問8 あなたは、健康だと思いますか。(1つに○)

<図表223> 健康状態

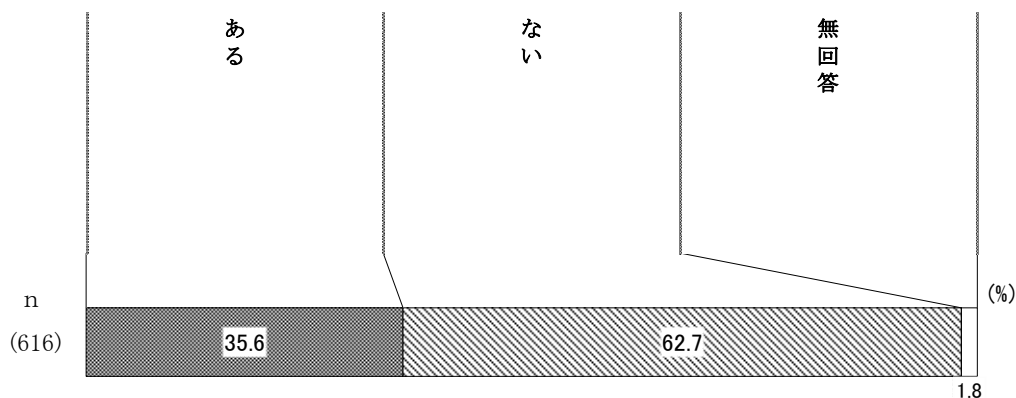


自身の健康状態についてたずねたところ、「とても健康」(15.9%)と「まあまあ健康」(65.3%)をあわせた《健康である》は81.2%となっている。

②治療中の病気の有無

問9 あなたは、現在治療中の病気がありますか。(1つに○)

<図表224> 治療中の病気の有無



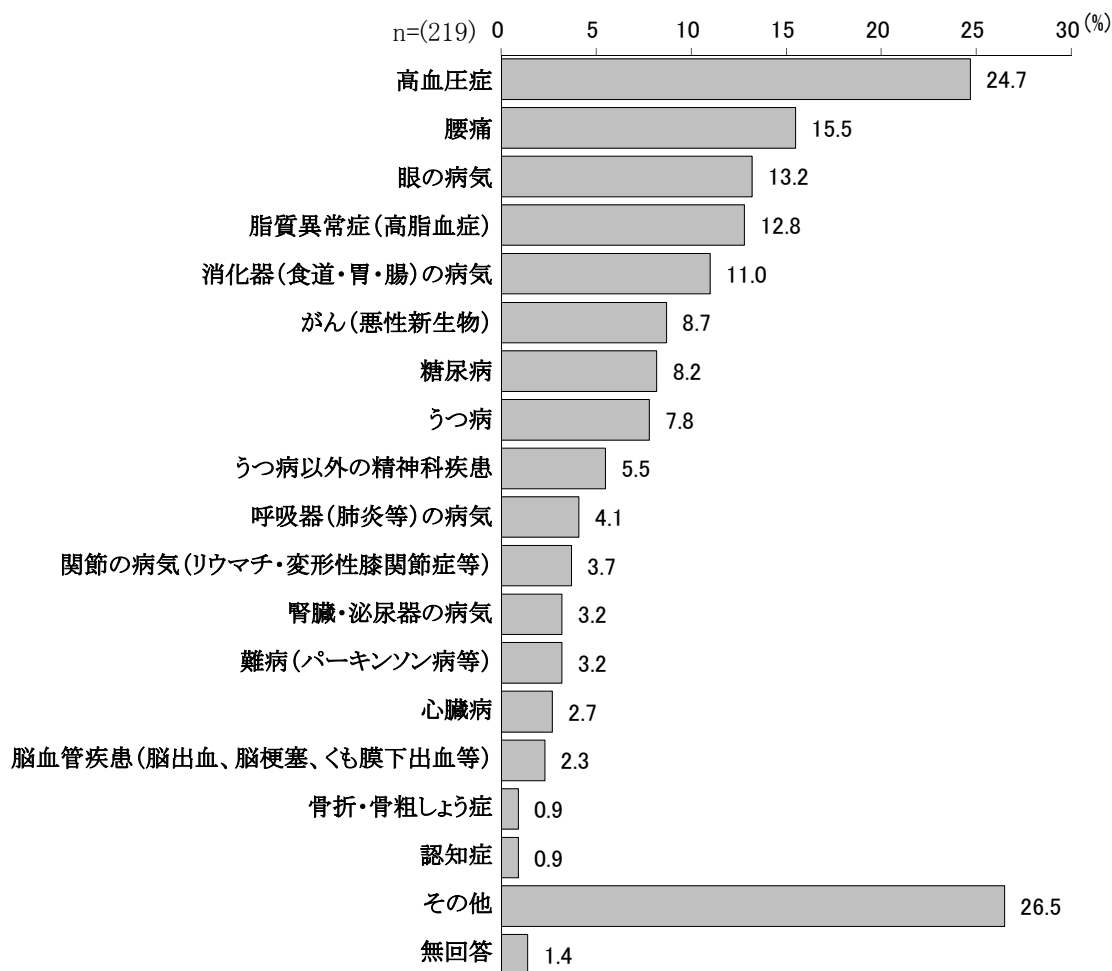
現在治療中の病気の有無をたずねたところ、「ある」(35.6%)が3割台半ばとなっている。

③治療中の病気の種類

問9-1 <<問9で「ある」を選んだ方のみお答えください>>

治療中の病気は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表225> 治療中の病気の種類 (複数回答)



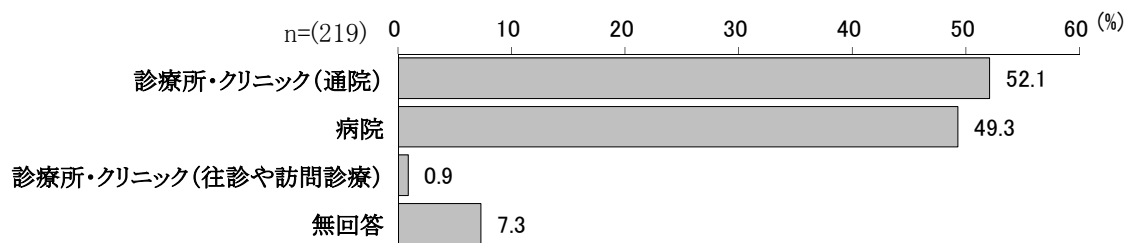
問9で治療中の病気が「ある」と回答した人に治療中の病気についてたずねたところ、「高血圧症」(24.7%)が2割台半ば近くで最も高く、次いで、「腰痛」(15.5%)、「眼の病気」(13.2%)の順となっている。「その他」では、アレルギー、皮膚病、痛風、ヘルニア、貧血といった内容があげられた。

④受診している医療機関

問9-2 <<問9で「ある」を選んだ方のみお答えください>>

受診している医療機関は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表226> 受診している医療機関 (複数回答)

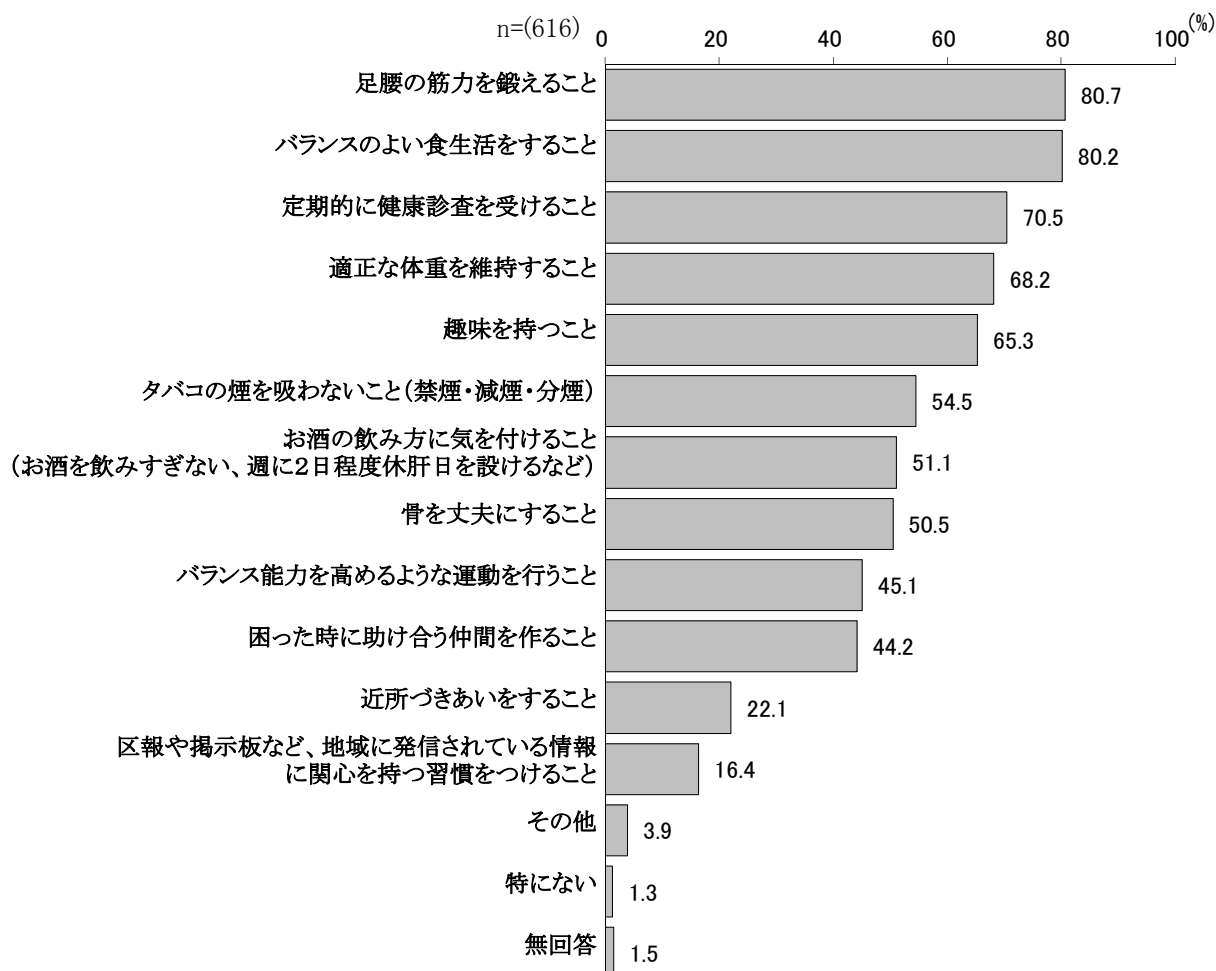


問9で治療中の病気が「ある」と回答した人に受診している医療機関についてたずねたところ、「診療所・クリニック(通院)」(52.1%)が5割強で最も高く、次いで「病院」(49.3%)の順となっている。

⑤40代から取り組んだほうがよいこと

問10 いきいきと充実した活動的な高齢期を実現するために、40代から取り組んだほうがよいことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表227> 40代から取り組んだほうがよいこと (複数回答)

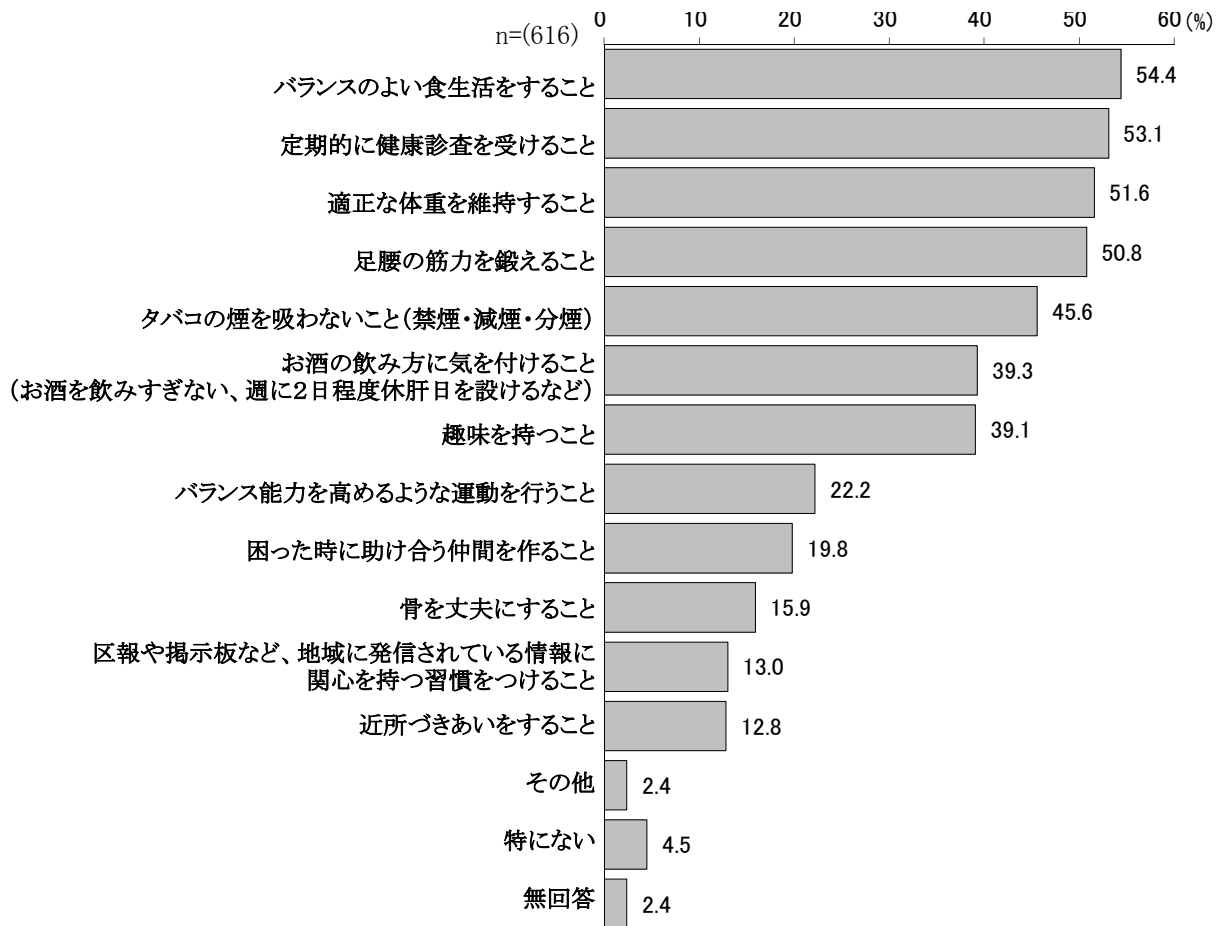


40代から取り組んだほうがよいことについてたずねたところ、「足腰の筋力を鍛えること」(80.7%)が約8割で最も高く、次いで、「バランスのよい食生活をする」(80.2%)、「定期的に健康診査を受けること」(70.5%)の順となっている。

⑥現在、実践していること

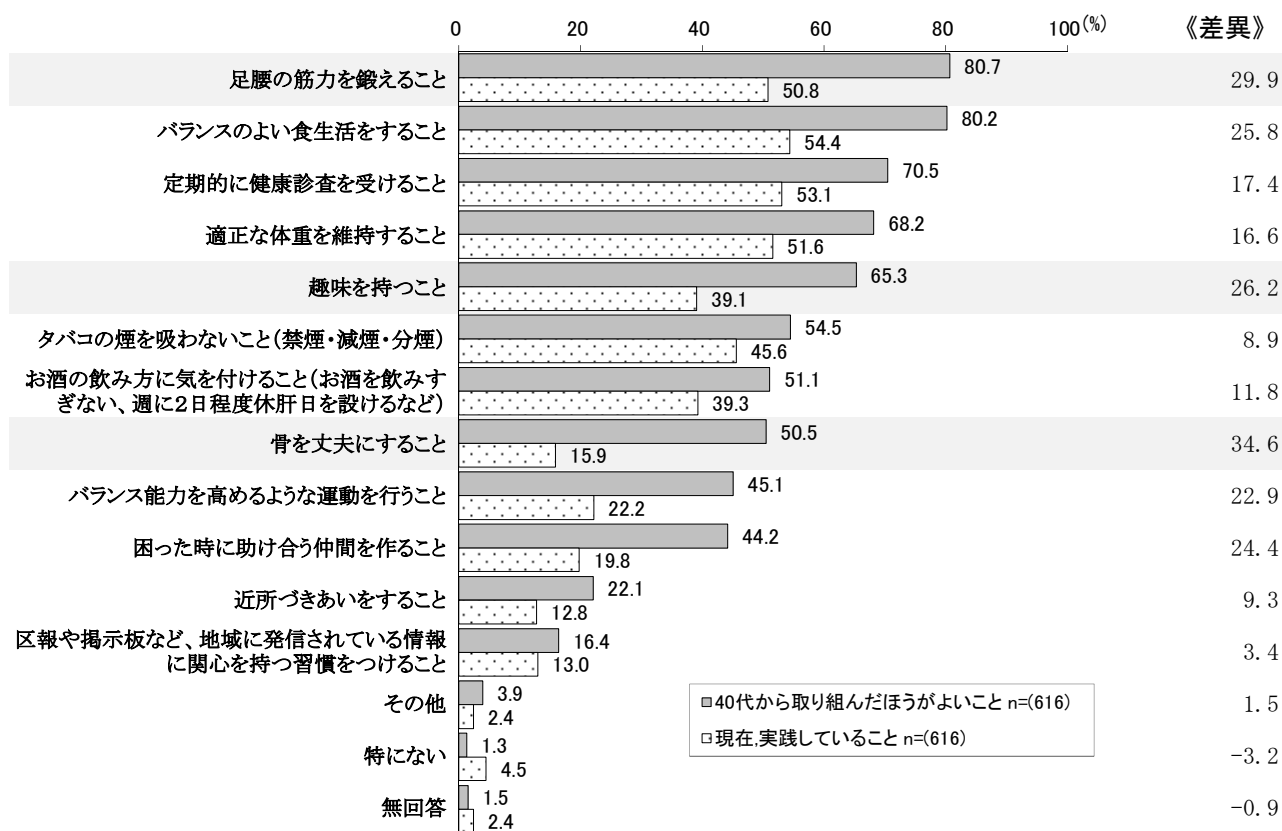
問11 あなたが現在、実践していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表228> 現在、実践していること (複数回答)



現在、実践していることについてたずねたところ、「バランスのよい食生活をする事」(54.4%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで、「定期的に健康診査を受けること」(53.1%)が5割台半ば近く、「適正な体重を維持すること」(51.6%)が5割強の順となっている。

<図表229> 40代から取り組んだほうがよいことと現在、実践していることとの差異（複数回答）

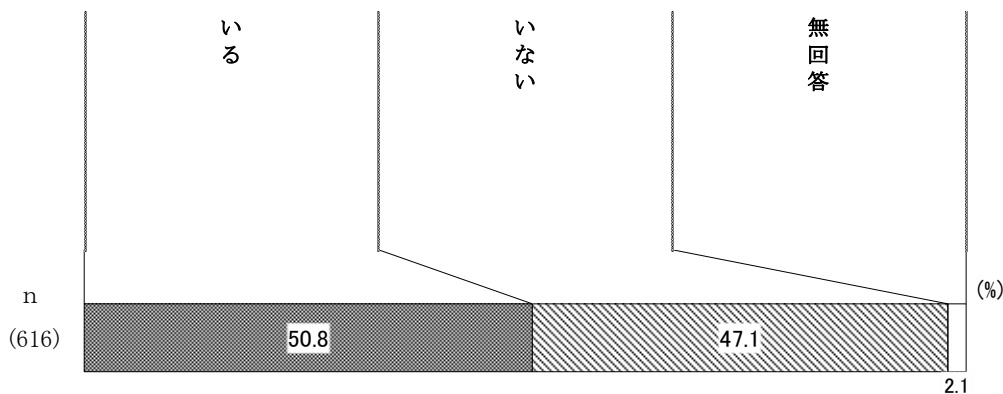


40代から取り組んだほうがよいことと現在、実践していることを比較すると、差異の大きな取り組みは、上位から「骨を丈夫にすること」(34.6%)、「足腰の筋力を鍛えること」(29.9%)、「趣味を持つこと」(26.2%)の順となっている。

⑦かかりつけ医の有無

問12 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

<図表230> かかりつけ医の有無

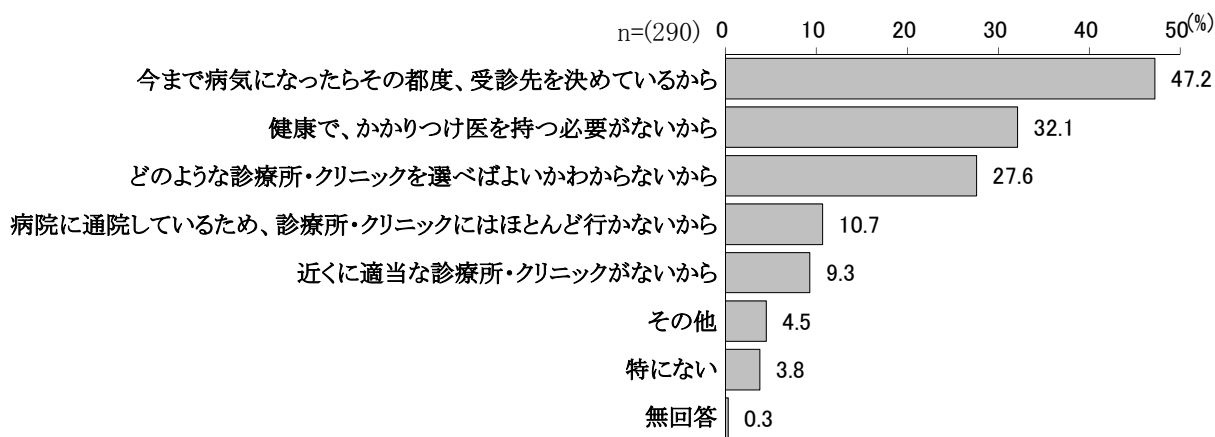


かかりつけ医の有無をたずねたところ、「いる」(50.8%)は約5割となっている。

⑧かかりつけ医がない理由

問12-1 <<問12で「2. いない」を選んだ方のみお答えください>>
 かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表231> かかりつけ医がない理由 (複数回答)



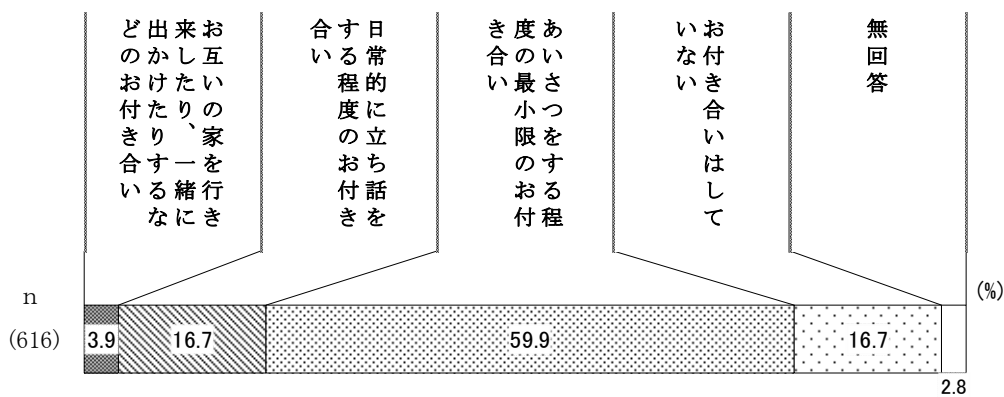
問12でかかりつけ医が「いない」と回答した人に、かかりつけ医がない理由をたずねたところ、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」(47.2%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」(32.1%)、「どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから」(27.6%)の順となっている。

(3) 日ごろの生活について

① ご近所付き合い

問13 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。(1つに○)

<図表232> ご近所付き合い

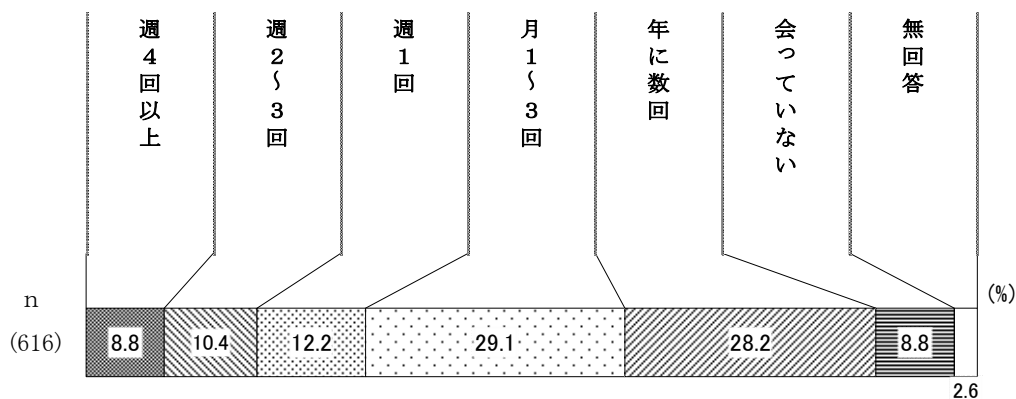


近所の方とのお付き合いの程度についてたずねたところ、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」(59.9%)が6割弱と最も高く、次いで「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」及び「お付き合いはしてない」(ともに16.7%)の順となっている。

② 友人・知人と会う頻度

問14 あなたは、友人・知人と会う頻度はどのくらいですか。(1つに○)

<図表233> 友人・知人と会う頻度

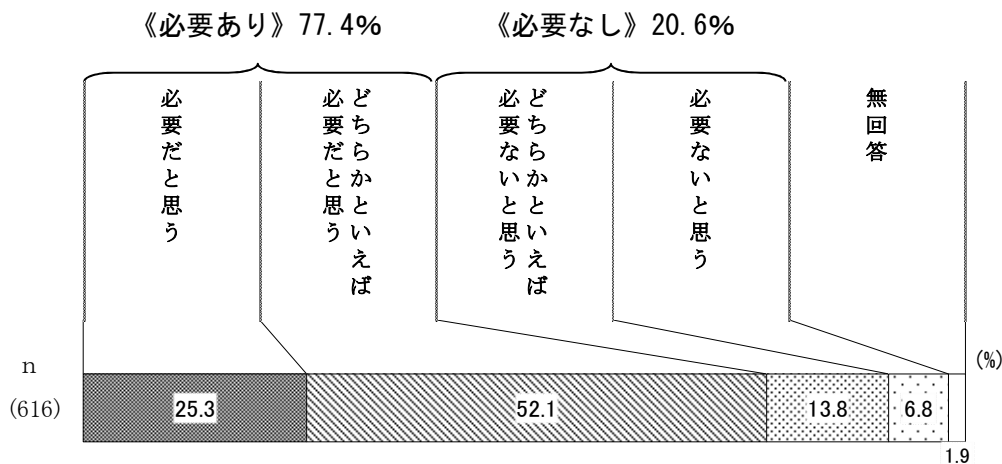


友人・知人と会う頻度についてたずねたところ、「月1〜3回」(29.1%)が3割弱と最も高く、次いで、「年に数回」(28.2%)、「週1回」(12.2%)の順となっている。

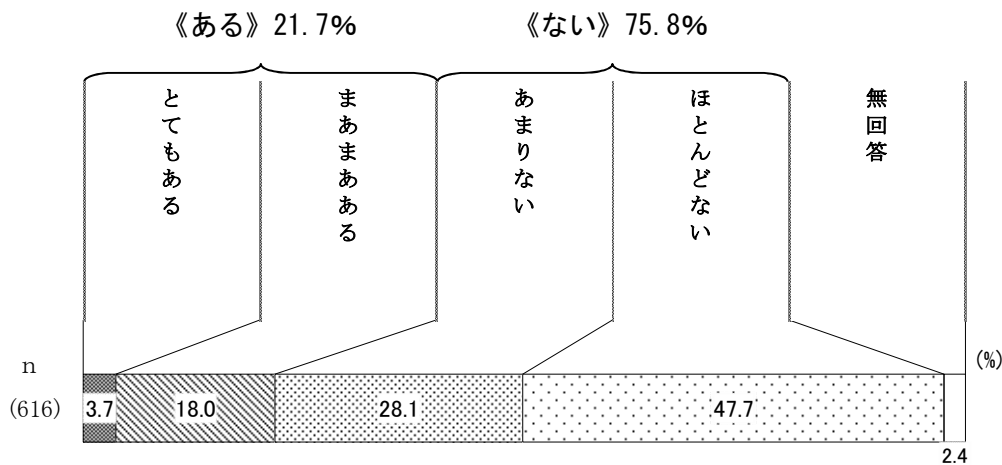
③多世代交流の必要性と頻度

問15 あなたのお住まいの地域で、あなたと違う世代の方と交流する機会についておたずねします。(どれか1つに○)

<図表234> 多世代交流の必要性



<図表235> 多世代交流の頻度



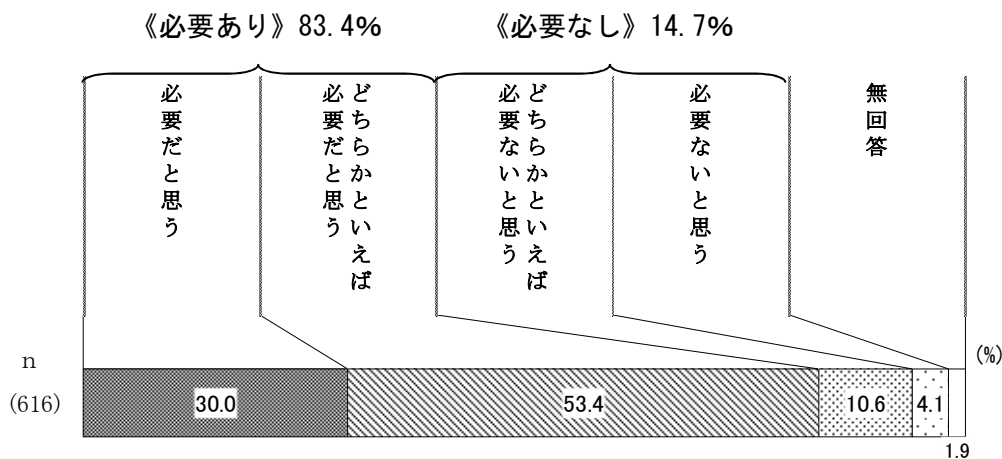
多世代交流の必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」(25.3%)と「どちらかといえば必要だと思う」(52.1%)をあわせた《必要あり》は77.4%となっている。

多世代交流の頻度についてたずねたところ、「とてもある」(3.7%)と「まあまあある」(18.0%)をあわせた《ある》は21.7%となっている。

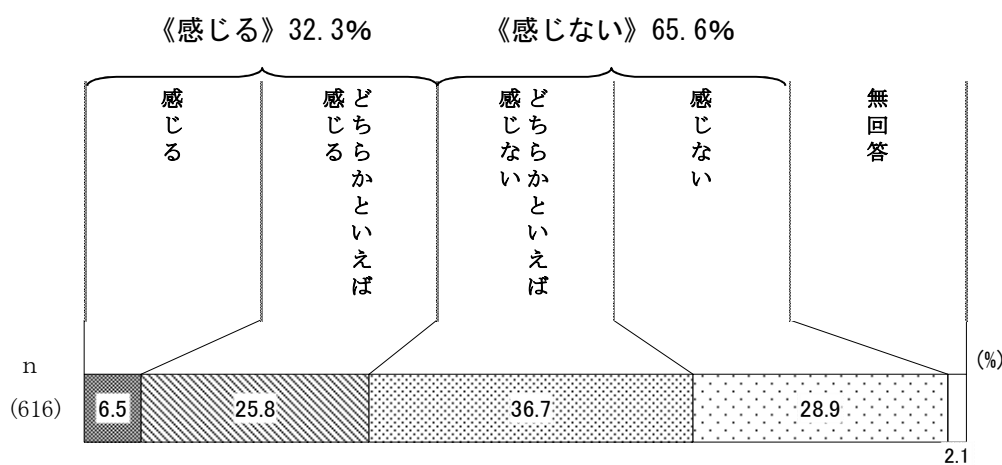
④地域のつながりの必要性と実感

問16 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）についておたずねします。（どれか1つに○）

<図表236> 地域のつながりの必要性



<図表237> 地域のつながりの実感



地域のつながりの必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」（30.0％）と「どちらかかといえは必要だと思う」（53.4％）をあわせた《必要あり》は83.4％となっている。

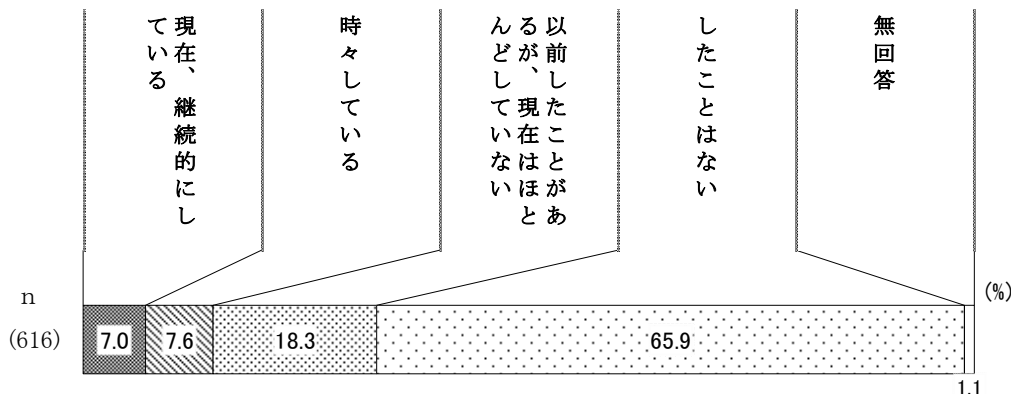
地域のつながりの実感についてたずねたところ、「感じる」（6.5％）と「どちらかかといえは感じる」（25.8％）をあわせた《感じる》は32.3％となっている。

(4) 支援を必要とする高齢者を支えるしくみづくりについて

①地域活動やボランティア活動等の状況

問17 あなたは、現在、地域活動（町会、自治会、子ども会など、以下同様）やボランティア活動等をしていますか。（1つに○）

<図表238> 地域活動やボランティア活動等の状況

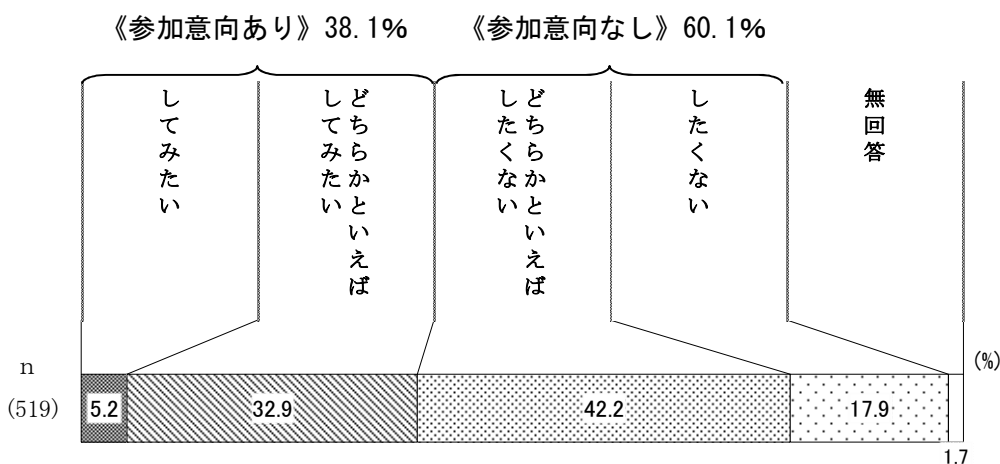


地域活動やボランティア活動等の状況をたずねたところ、「したことはない」（65.9%）が6割台半ばと最も高く、次いで、「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」（18.3%）、「時々している」（7.6%）の順となっている。

②今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向

問17-1 <<問17で「3. 以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」または「4. したことはない」を選んだ方のみお答えください>>
あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか。（1つに○）

<図表239> 今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向

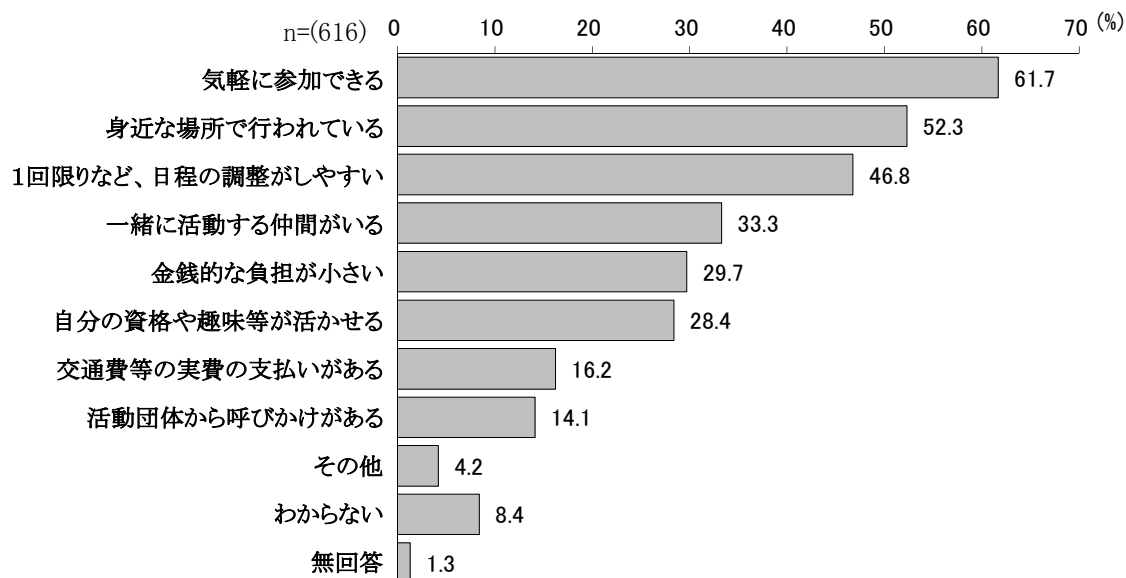


問17で「以前したことがあるが、現在はしていない」または「したことはない」と回答した人に今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向についてたずねたところ、「してみたい」（5.2%）と「どちらかといえばしてみたい」（32.9%）をあわせた《参加意向あり》は38.1%となっている。

③地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形

問18 あなたはどのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表240> 地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形（複数回答）

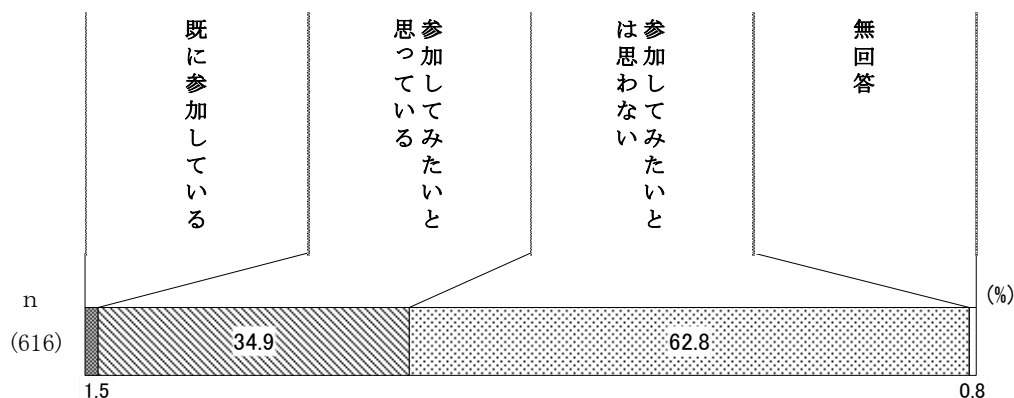


地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形をたずねたところ、「気軽に参加できる」（61.7%）が6割強で最も高く、次いで、「身近な場所で行われている」（52.3%）、「1回限りなど、日程の調整がしやすい」（46.8%）の順となっている。

④高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向

問19 あなたは、支援を必要とする地域の高齢者の身の回りの世話（ごみ出しや買い物の付き添い、見守り等）や生活を支援するボランティア活動に機会があれば参加してみたいですか。（1つに○）

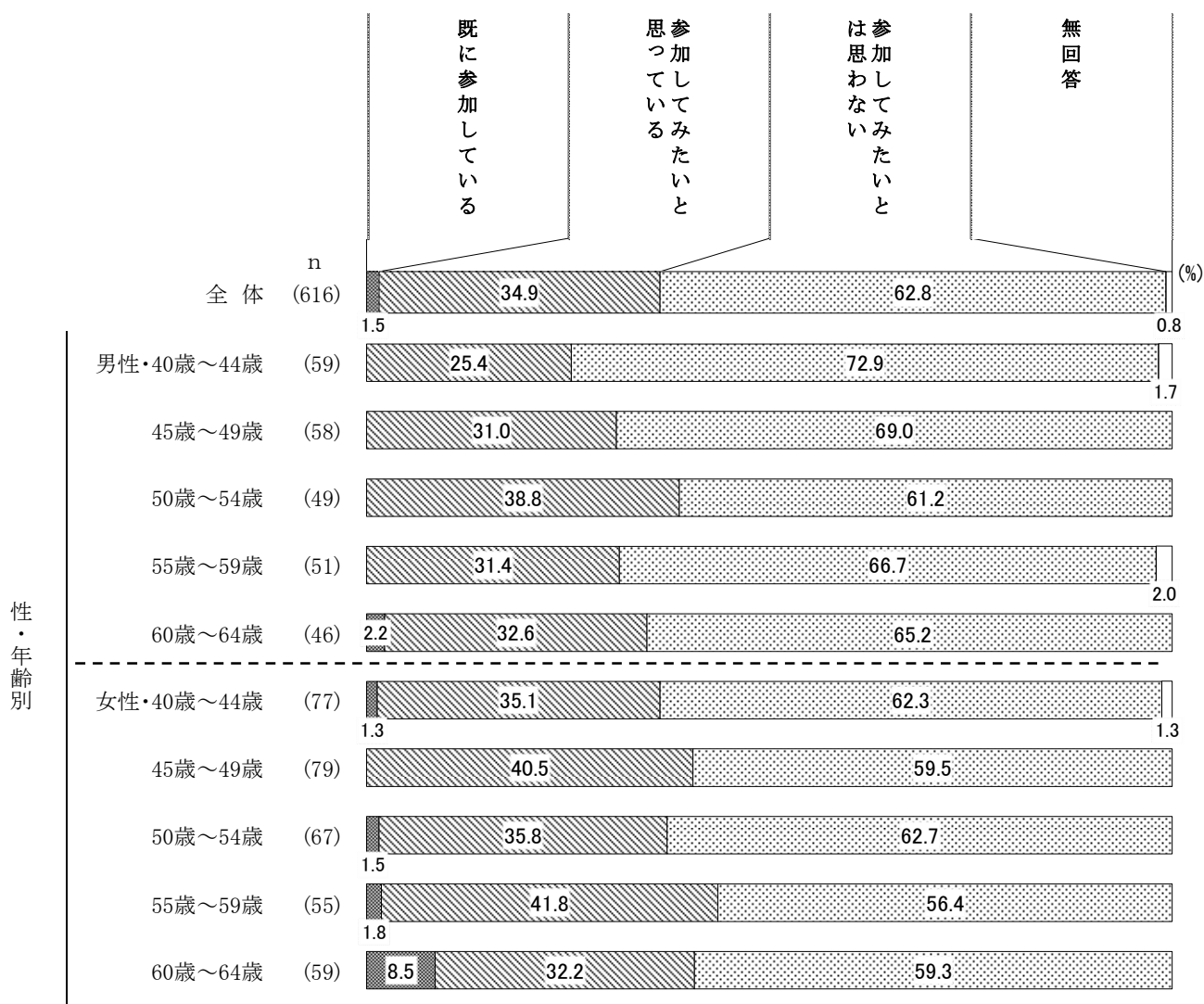
<図表241> 高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向



高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向をたずねたところ、「参加してみたいとは思わない」(62.8%)が6割強で最も高く、次いで、「参加してみたいと思っている」(34.9%)、「既に参加している」(1.5%)の順となっている。

性・年齢別でみると、「参加してみたいと思っている」割合は、男性の場合、50代前半で38.8%と高く、女性の場合、40代後半と50代後半でそれぞれ40.5%、41.8%と高くなっている。

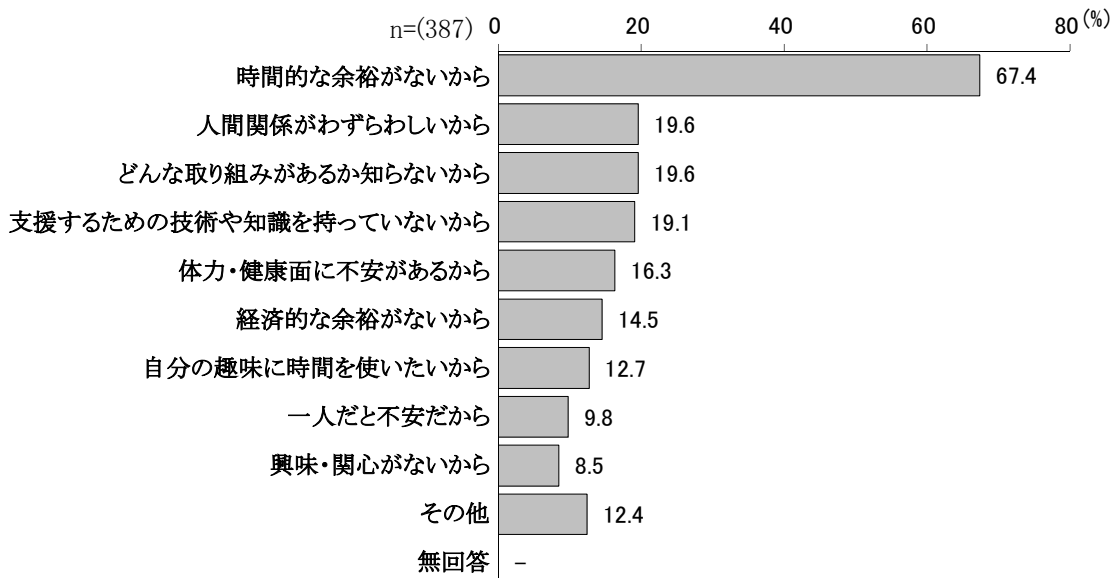
<図表242> 高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向(性・年齢別)



⑤高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に参加したくない理由

問19-1 《問19で「参加してみたいとは思わない」を選んだ方のみお答えください》
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表243> 高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に参加したくない理由 (複数回答)

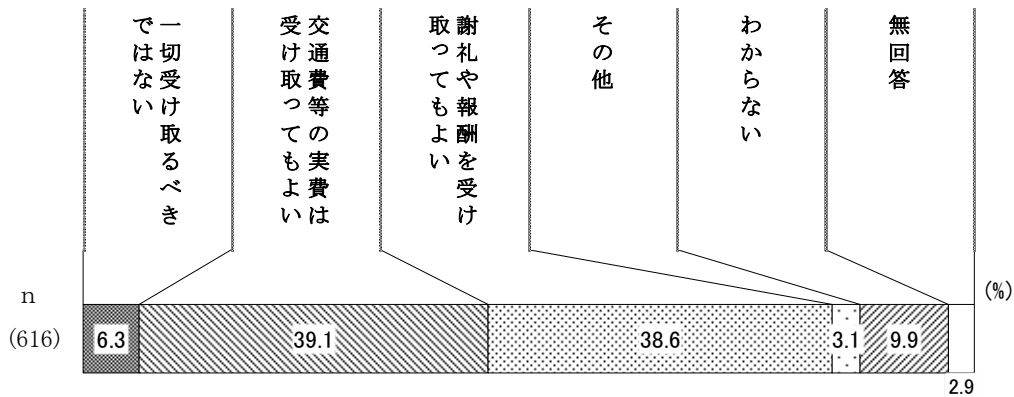


問19で「参加してみたいとは思わない」と回答した人に高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に参加したくない理由をたずねたところ、「時間的な余裕がないから」(67.4%)が6割台半ばを超えて最も高く、次いで、「人間関係がわずらわしいから」及び「どんな取り組みがあるから知らないから」(ともに19.6%)の順となっている。「その他」では、仕事が忙しい、家族の介護や世話のため、子育てで手いっぱい、他の支援をしているといった内容があげられた。

⑥ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについて

問20 支援を必要とする地域の高齢者の身の回りの世話（ごみ出しや買い物の付き添い、見守り等）や生活を支援するボランティア活動をした人が、何らかの対価を受け取ることについて、あなたはどのように思いますか。（1つに○）

<図表244> ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについて

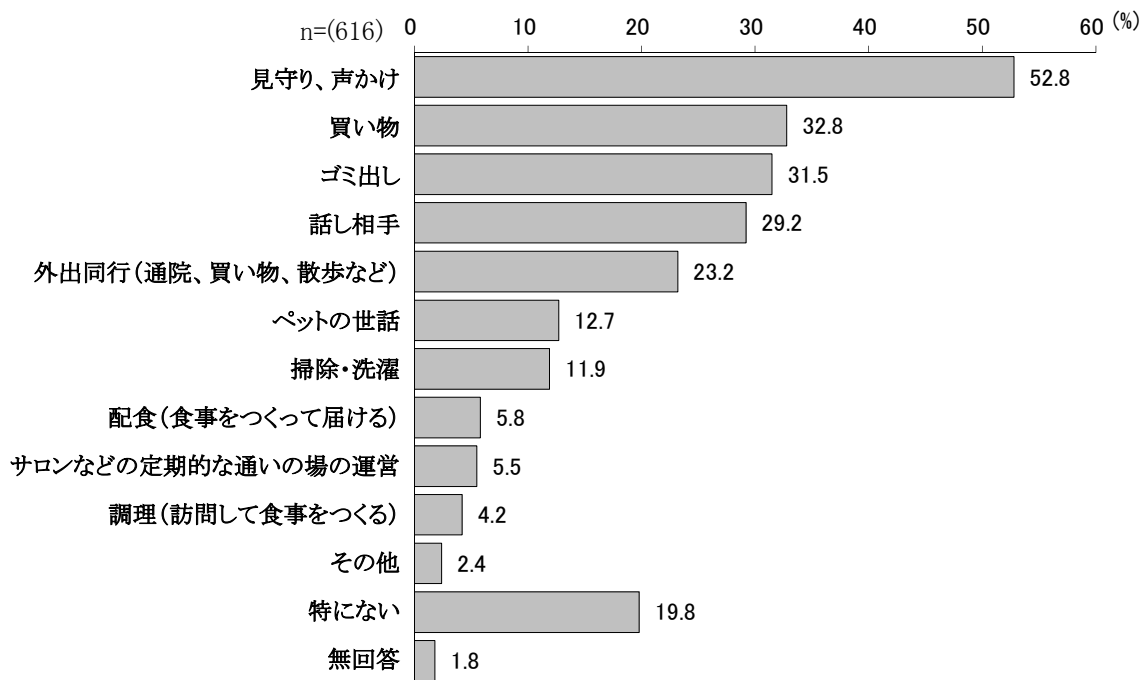


ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについてたずねたところ、「交通費等の実費は受け取ってもよい」(39.1%)が4割弱で最も高く、次いで、「謝礼や報酬を受け取ってもよい」(38.6%)、「一切受け取るべきではない」(6.3%)の順となっている。

⑦自分が担うことのできそうな支援・サービス

問21 支援を必要とする地域の高齢者の身の周りの世話や生活を支援するボランティア活動として、あなたが担うことのできそうな支援・サービス(現在支援しているものを含む)はありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表245> 自分が担うことのできそうな支援・サービス (複数回答)

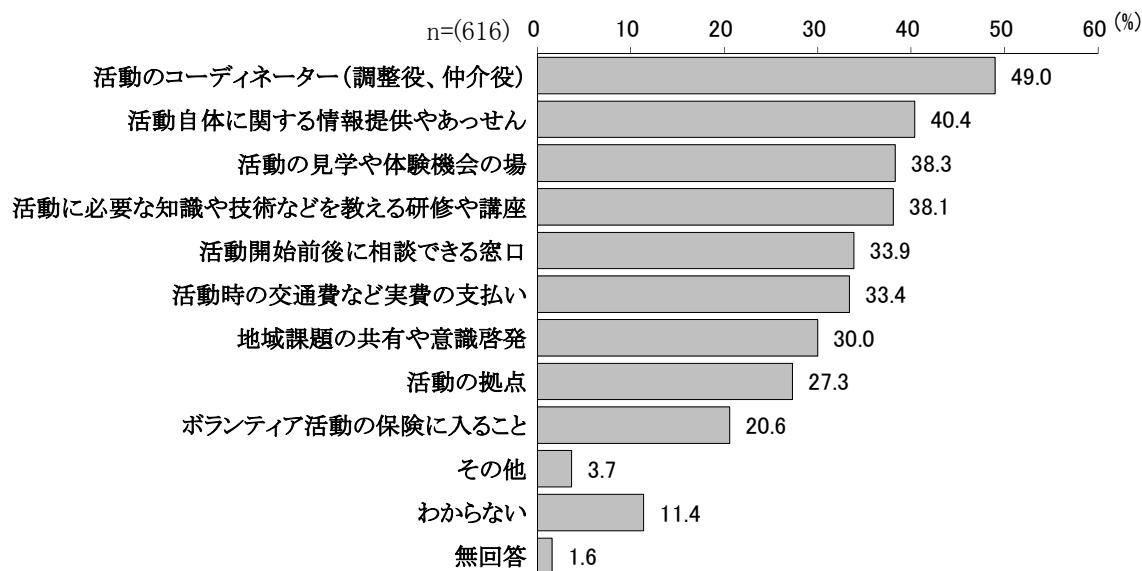


自分が担うことのできそうな支援・サービスについてたずねたところ、「見守り、声かけ」(52.8%)が5割強で最も高く、次いで、「買い物」(32.8%)、「ゴミ出し」(31.5%)の順となっている。

⑧ボランティア活動を増やしていくのに必要なサポート

問22 あなたは、支援を必要とする高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために、どのようなサポートが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表246> ボランティア活動を増やしていくのに必要なサポート (複数回答)



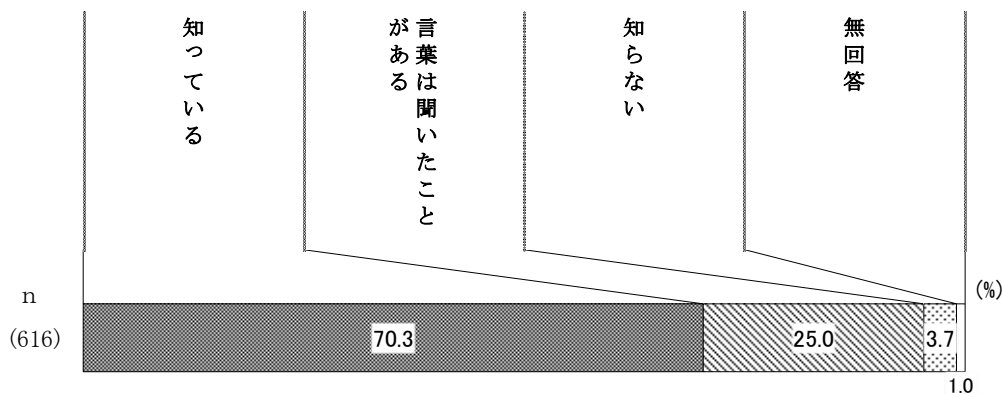
ボランティア活動を増やしていくのに必要なサポートをたずねたところ、「活動のコーディネーター(調整役、仲介役)」(49.0%)が5割弱で最も高く、次いで、「活動自体に関する情報提供やあっせん」(40.4%)、「活動の見学や体験機会の場」(38.3%)の順となっている。

(5) 若年性認知症について

①若年性認知症の認知度

問23 あなたは「若年性認知症」という病気をご存じですか。(1つに○)

<図表247> 若年性認知症の認知度

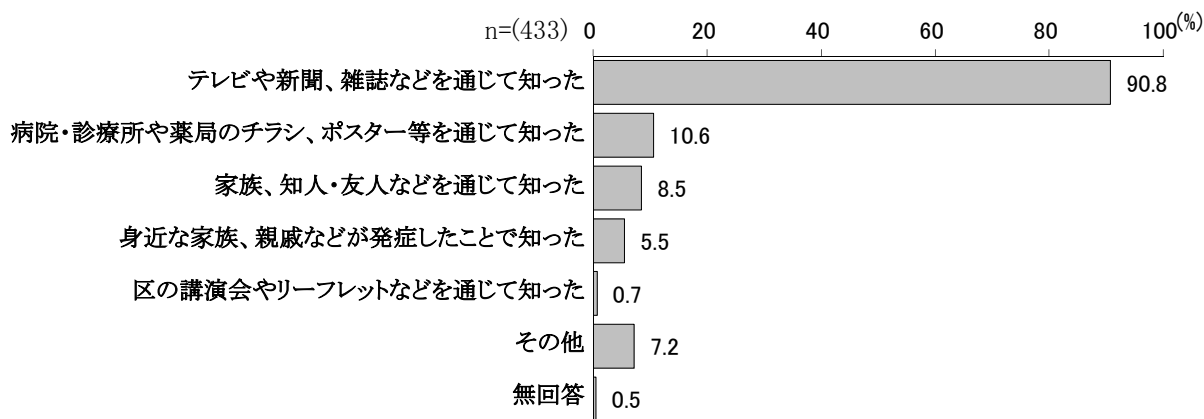


若年性認知症の認知度をたずねたところ、「知っている」(70.3%)が約7割と最も高くなっている。

②若年性認知症を知ったきっかけ

問23-1 <<問23で「知っている」を選んだ方のみお答えください>>
「若年性認知症」を何でお知りになりましたか。(あてはまるものすべてに○)

<図表248> 若年性認知症を知ったきっかけ(複数回答)

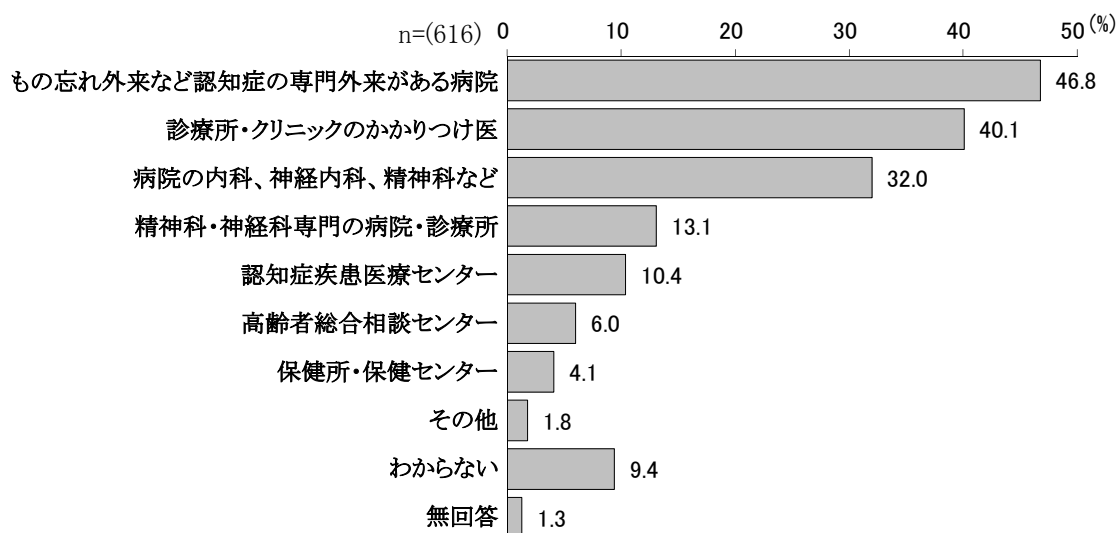


問23で若年性認知症を「知っている」と回答した人に、そのきっかけをたずねたところ、「テレビや新聞、雑誌などを通じて知った」(90.8%)が約9割と最も高くなっている。

③もの忘れ等気になる症状があった時の相談先

問24 あなたは、もの忘れや理解・判断力の低下、そのことによる仕事上のトラブルなど気になる症状があったとき、どちらに相談しようと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表249> もの忘れ等気になる症状があった時の相談先 (複数回答)

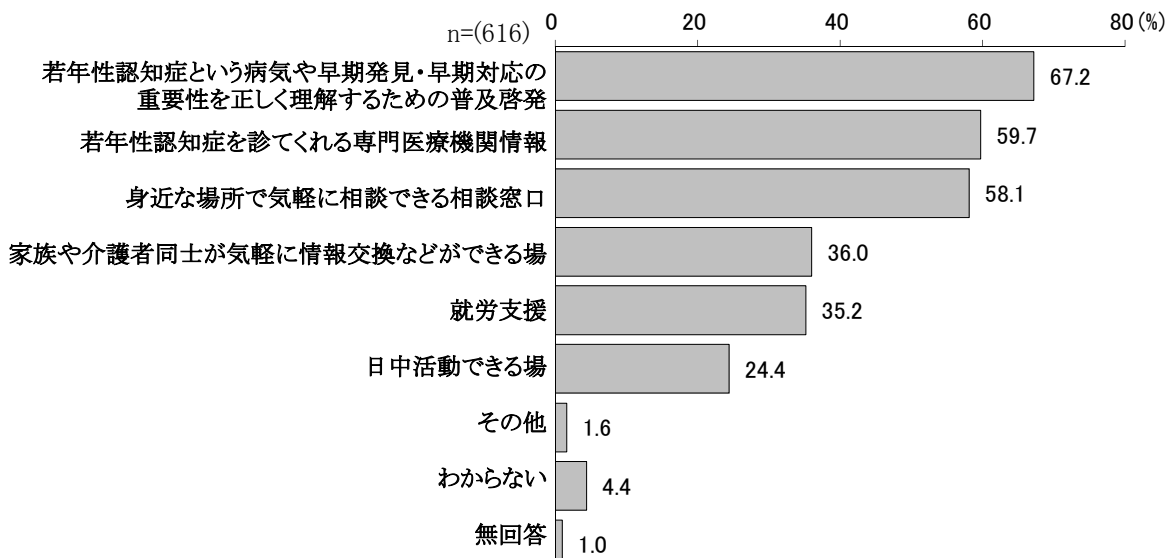


もの忘れ等気になる症状があった時の相談先をたずねたところ、「もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院」(46.8%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「診療所・クリニックのかかりつけ医」(40.1%)、「病院の内科、神経内科、精神科など」(32.0%)の順となっている。

④若年性認知症に対して必要な支援

問25 あなたは、若年性認知症の支援には何が必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表250> 若年性認知症に対して必要な支援 (複数回答)



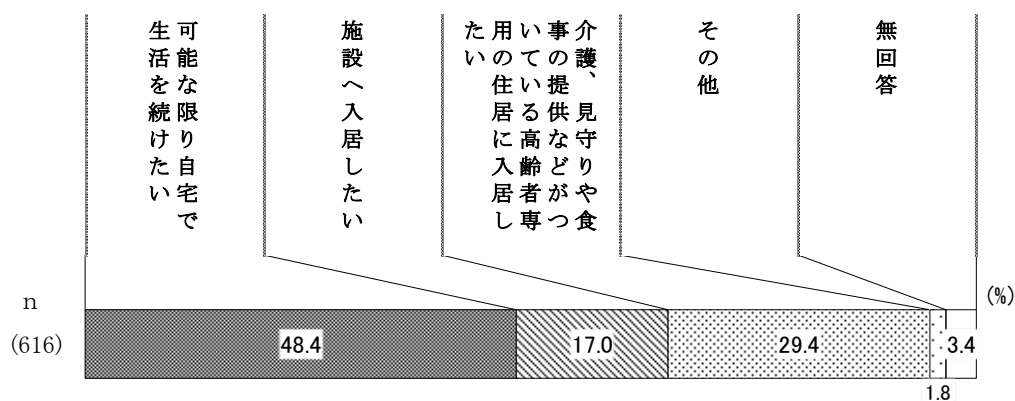
若年性認知症の支援に必要なものをたずねたところ、「若年性認知症という病気や早期発見・早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発」(67.2%)が6割台半ばを超えて最も高く、次いで「若年性認知症を診てくれる専門医療機関情報」(59.7%)、「身近な場所で気軽に相談できる相談窓口」(58.1%)の順となっている。

(6) 在宅療養等について

①介護が必要になった場合の生活場所

問26 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。
(1つに○)

<図表251> 介護が必要になった場合の生活場所

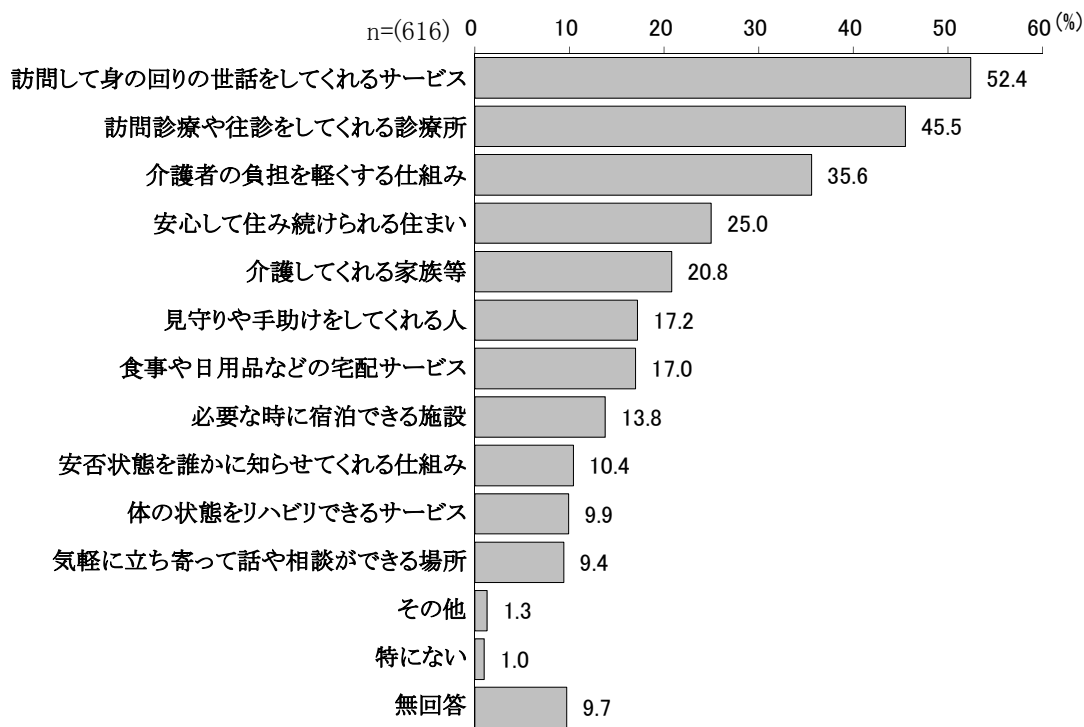


介護が必要になった場合の生活場所をたずねたところ、「可能な限り自宅で生活を続けたい」(48.4%)が5割近くとなっている。

②高齢者が在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの

問27 介護や医療が必要になっても、高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものは何ですか。(あてはまるもの3つに○)

<図表252> 高齢者が在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの (複数回答)

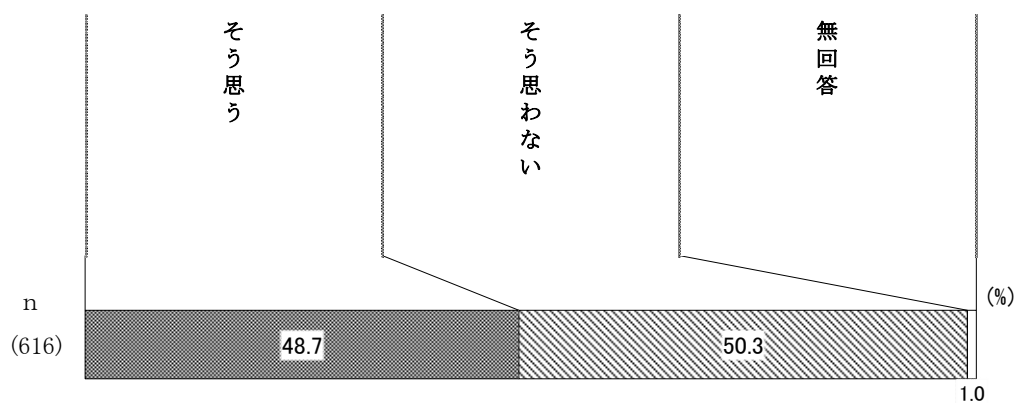


高齢者が在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うものをたずねたところ、「訪問して身の回りの世話をしてくれるサービス」(52.4%)が5割強と最も高く、次いで、「訪問診療や往診をしてくれる診療所」(45.5%)、「介護者の負担を軽くする仕組み」(35.6%)の順となっている。

③在宅療養の意向

問28 あなたは、脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、理想として自宅で療養を続けたいと思いますか。(1つに○)

<図表253> 在宅療養の意向

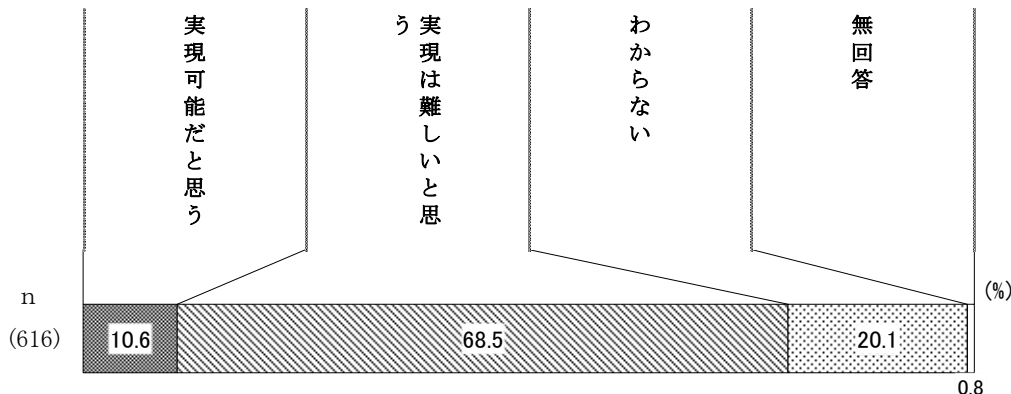


在宅療養の意向をたずねたところ、「そう思う」(48.7%)は5割近くとなっている。

④在宅療養の可能性

問29 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。(1つに○)

<図表254> 在宅療養の可能性

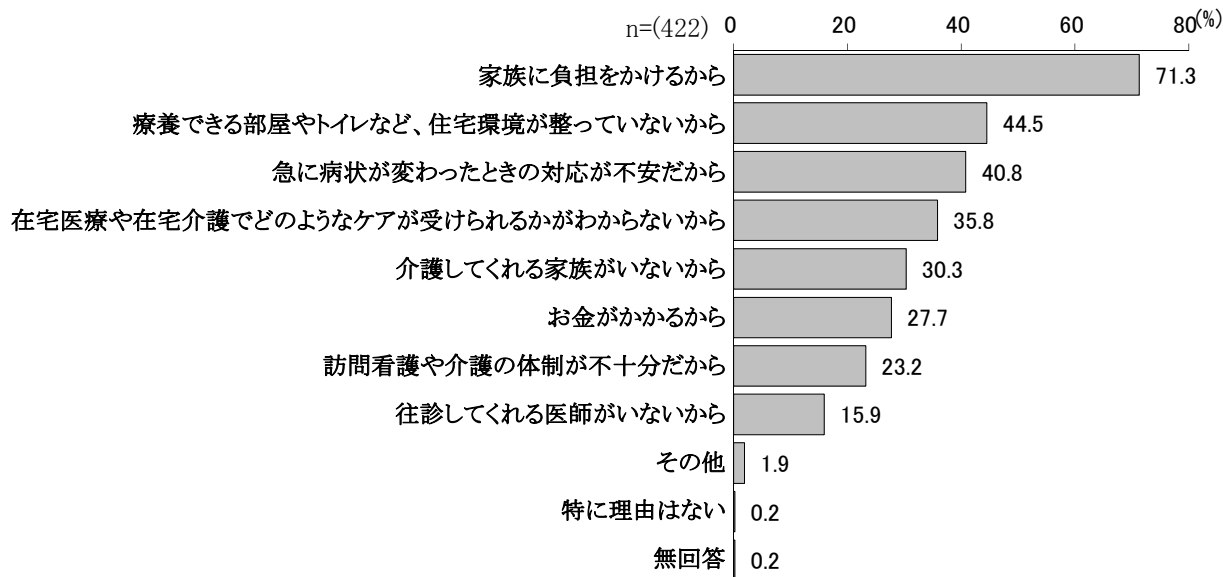


自宅での療養の可能性をたずねたところ、「実現は難しいと思う」(68.5%)は7割近くとなっている。

⑤在宅療養が難しいと思う理由

問29-1 <<問29で「実現は難しいと思う」を選んだ方のみお答えください>>
 実現は難しいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表255> 在宅療養が難しいと思う理由(複数回答)



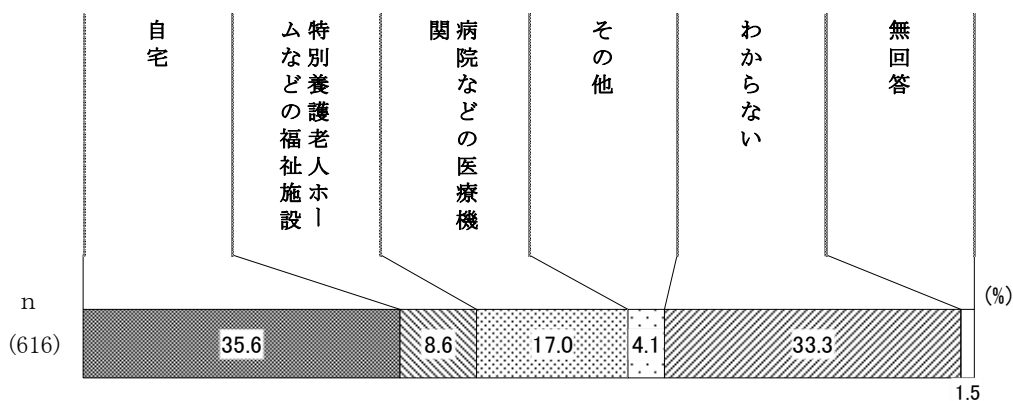
問29で「実現は難しいと思う」と回答した人に、在宅療養が難しいと思う理由をたずねたところ、「家族に負担をかけるから」(71.3%)が7割強で最も高く、次いで、「療養できる部屋やトイレなど、住宅環境が整っていないから」(44.5%)、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」(40.8%)の順となっている。

(7) 人生の最終段階における医療について

①最期を迎えたい場所

問30 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

<図表256> 最期を迎えたい場所

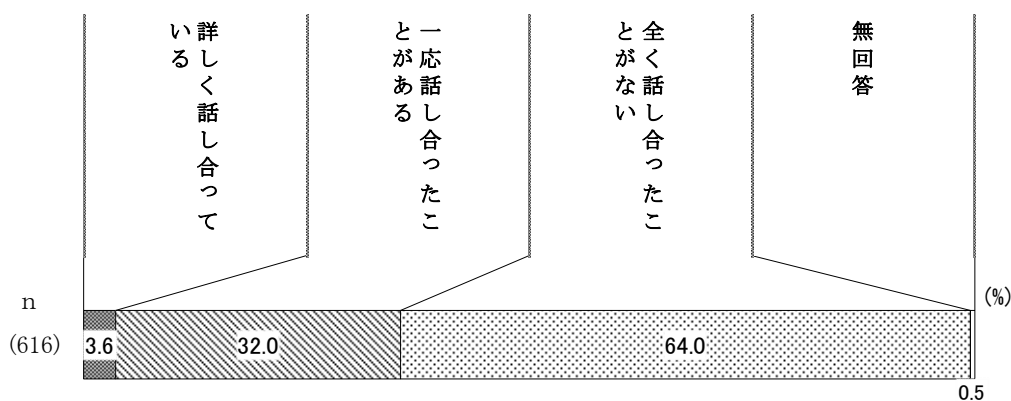


最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」(35.6%)が3割台半ばで最も高く、次いで、「病院などの医療機関」(17.0%)の順となっている。

②ご家族と話し合った経験

問31 あなたは、人生の最終段階において受けたい医療や受けたくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。(1つに○)

<図表257> ご家族と話し合った経験

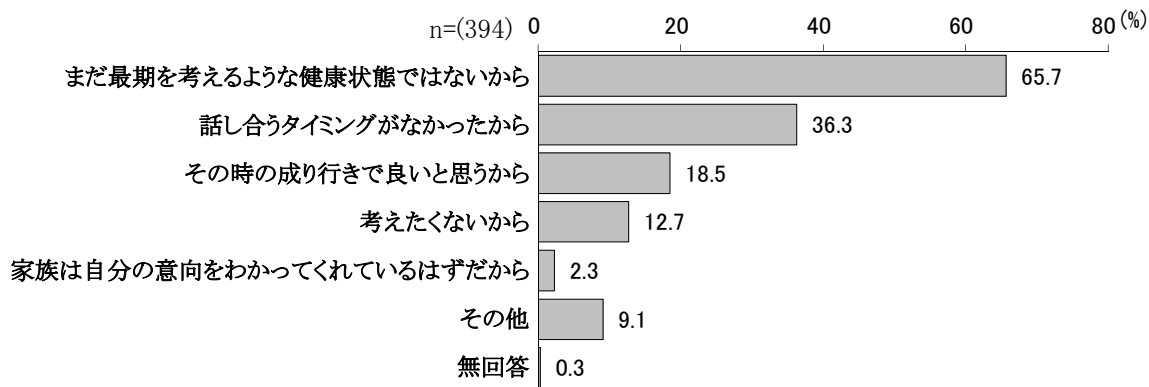


人生の最終段階で受けたい医療・受けたくない医療について話し合ったかたずねたところ、「全く話し合ったことがない」(64.0%)が6割台半ば近くとなっている。

③全く話し合ったことがない理由

問31-1 《問31で「全く話し合ったことがない」を選んだ方のみお答えください》
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表258> 全く話し合ったことがない理由 (複数回答)

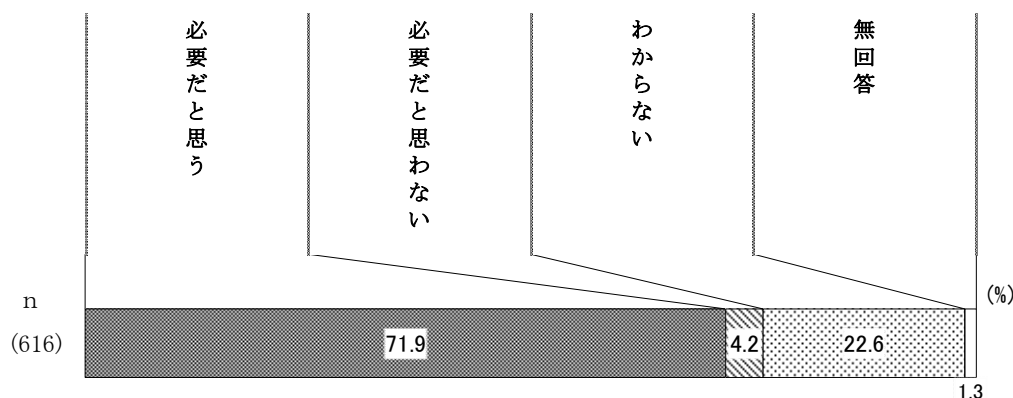


問31で「全く話し合ったことがない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「まだ最期を考えるような健康状態ではないから」(65.7%)が6割台半ばで最も高く、次いで、「話し合うタイミングがなかったから」(36.3%)、「その時の成り行きで良いと思うから」(18.5%)の順となっている。

④エンディングノートの作成

問32 あなたは、自分で判断出来なくなった場合に備えて、どのような治療を受けたいかあるいは受けたくないかなどを記載した書面(エンディングノートなど)をあらかじめ作成しておくことについて、どう思いますか。(1つに○)

<図表259> エンディングノートの作成



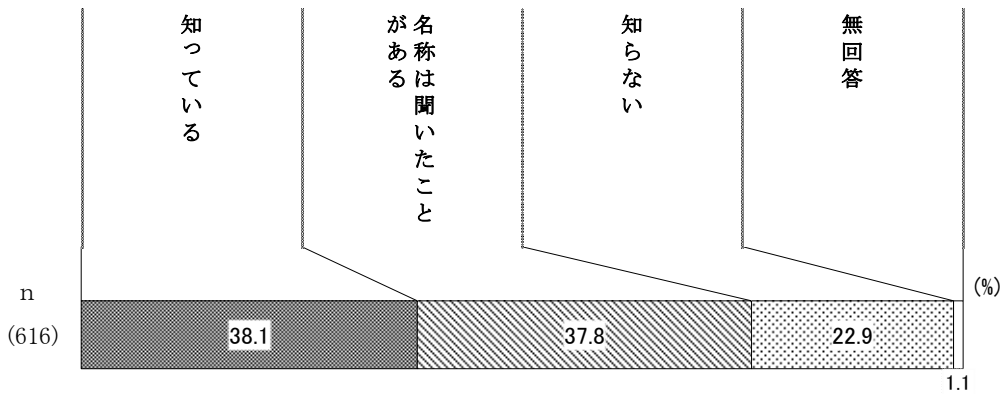
エンディングノートの作成についてたずねたところ、「必要だと思う」(71.9%)が7割強となっている。

(8) 緩和医療・ケアについて

①がんの「緩和医療・ケア」の認知度

問33 あなたは、がんの「緩和医療・ケア」について、ご存じですか。(1つに○)

<図表260> がんの「緩和医療・ケア」の認知度

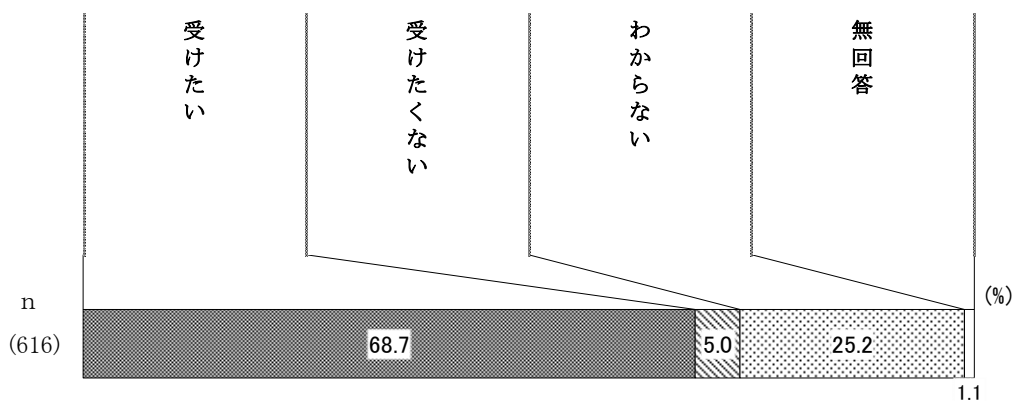


がんの「緩和医療・ケア」の認知度をたずねたところ、「知っている」(38.1%)は4割近く、「名称は聞いたことがある」(37.8%)は3割台半ばを超えている。

②がんの「緩和医療・ケア」の利用意向

問34 あなたは、がんで、病状の回復が期待できない場合、「緩和医療・ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表261> がんの「緩和医療・ケア」の利用意向

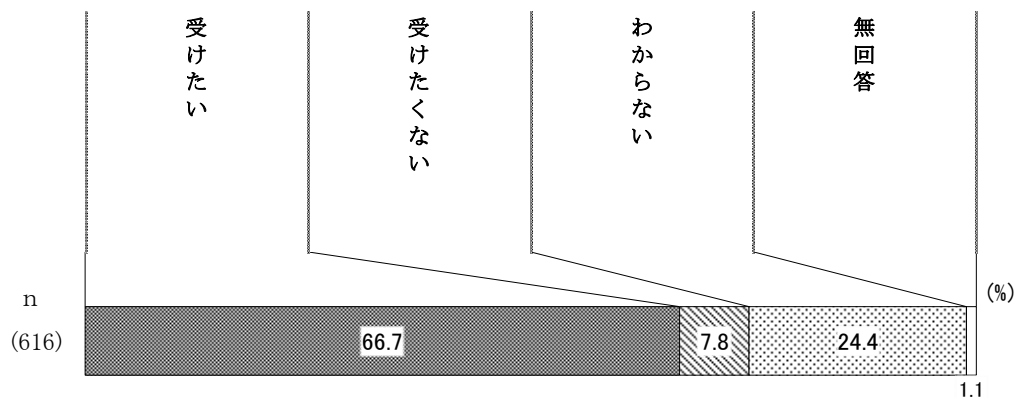


がんの「緩和医療・ケア」の利用意向をたずねたところ、「受けたい」(68.7%)は7割近くとなっている。

③がん以外の病気で、症状の緩和を主とした医療・ケアの利用意向

問35 あなたは、がん以外の病気で、病状の回復が期待できない場合、症状の緩和を主とした医療・ケアを受けたいですか。(1つに○)

<図表262> がん以外の病気で、症状の緩和を主とした医療・ケアの利用意向



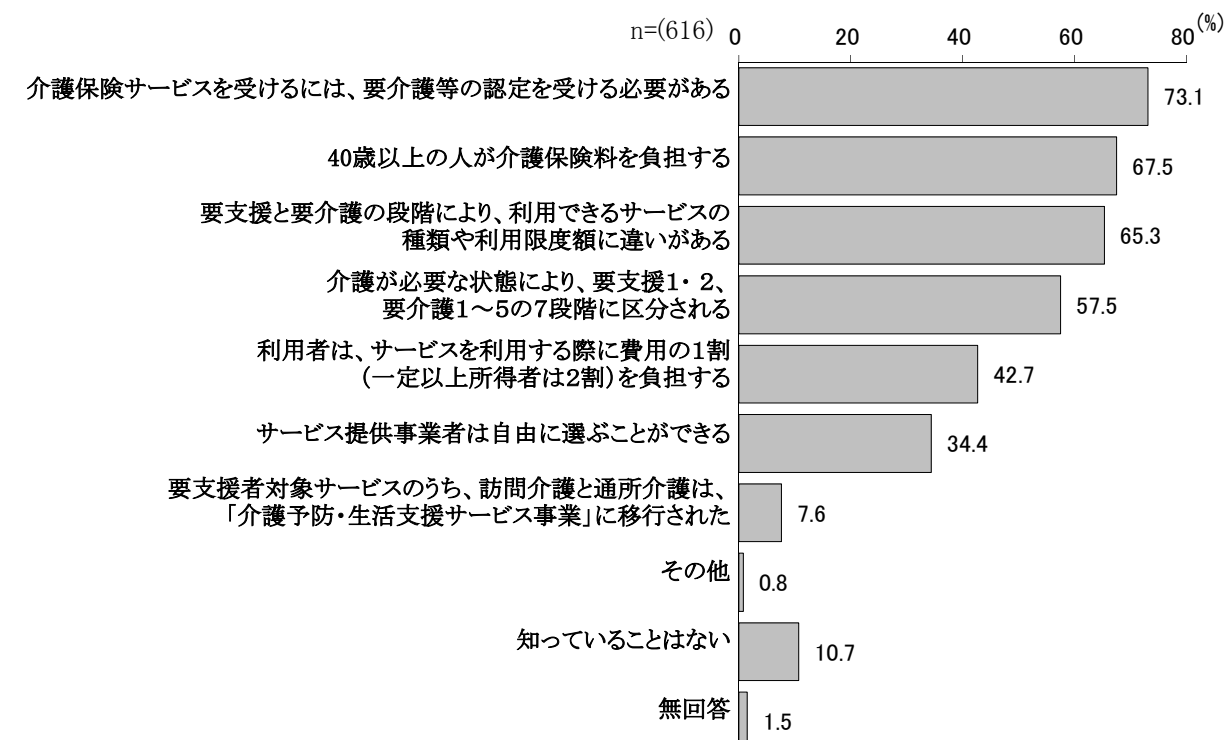
がん以外の病気で、症状の緩和を主とした医療・ケアの利用意向をたずねたところ、「受けたい」(66.7%)は6割台半ばを超えている。

(9) 介護保険制度について

①介護保険制度の周知状況

問36 あなたは「介護保険制度」について、どのようなことをご存じですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表263> 介護保険制度の周知状況 (複数回答)

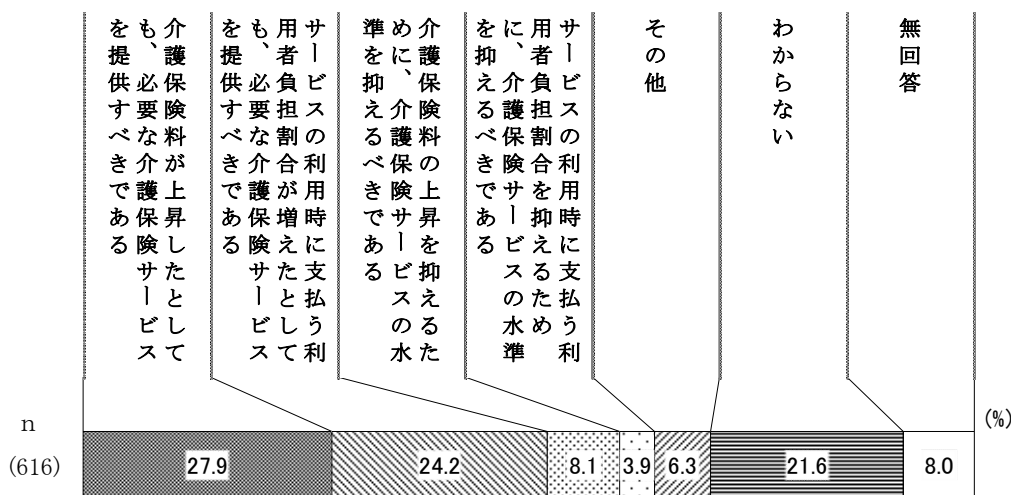


介護保険制度の周知状況をたずねたところ、「介護保険サービスを受けるには、要介護等の認定を受ける必要がある」(73.1%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで、「40歳以上の方が介護保険料を負担する」(67.5%)、「要支援と要介護の段階により、利用できるサービスの種類や利用限度額に違いがある」(65.3%)の順となっている。

②介護保険のサービスと費用負担について

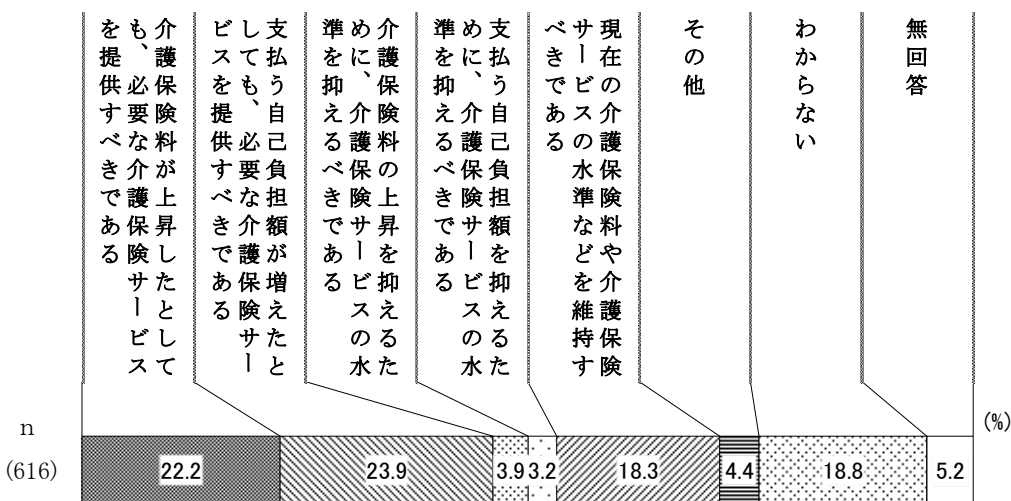
問37 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表264> 介護保険のサービスと費用負担について



介護保険のサービスと費用負担についてたずねたところ、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(27.9%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで、「サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(24.2%)の順となっている。

【参考】 介護保険のサービスと費用負担について(平成25年度調査)



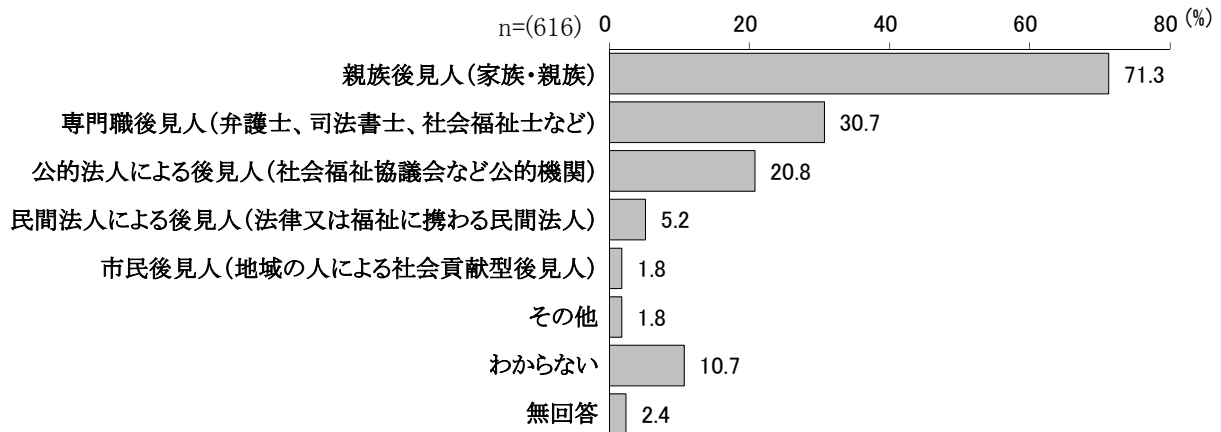
※今回調査(平成28年度)では選択肢に変更あり

(10) 権利擁護について

①成年後見制度を利用する際、後見人になって欲しい人

問38 あなたが成年後見制度を利用することになった場合、どのような人に後見人になって欲しいと思いますか。すでに利用している方もお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

<図表265> 成年後見制度を利用する際、後見人になって欲しい人（複数回答）

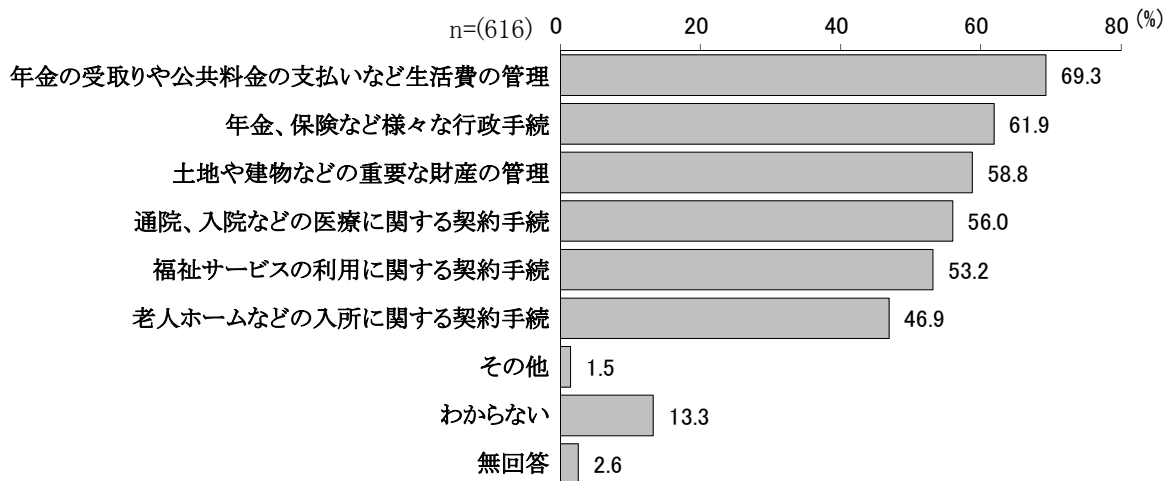


成年後見制度を利用する際、後見人になって欲しい人をたずねたところ、「親族後見人(家族・親族)」(71.3%)が7割強で最も高く、次いで、「専門職後見人(弁護士、司法書士、社会福祉士など)」(30.7%)、「公的法人による後見人(社会福祉協議会など公的機関)」(20.8%)の順となっている。

②成年後見制度を利用する際、期待する役割

問39 あなたが成年後見制度を利用することになった場合、期待する役割は何ですか。すでに利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

<図表266> 成年後見制度を利用する際、期待する役割（複数回答）

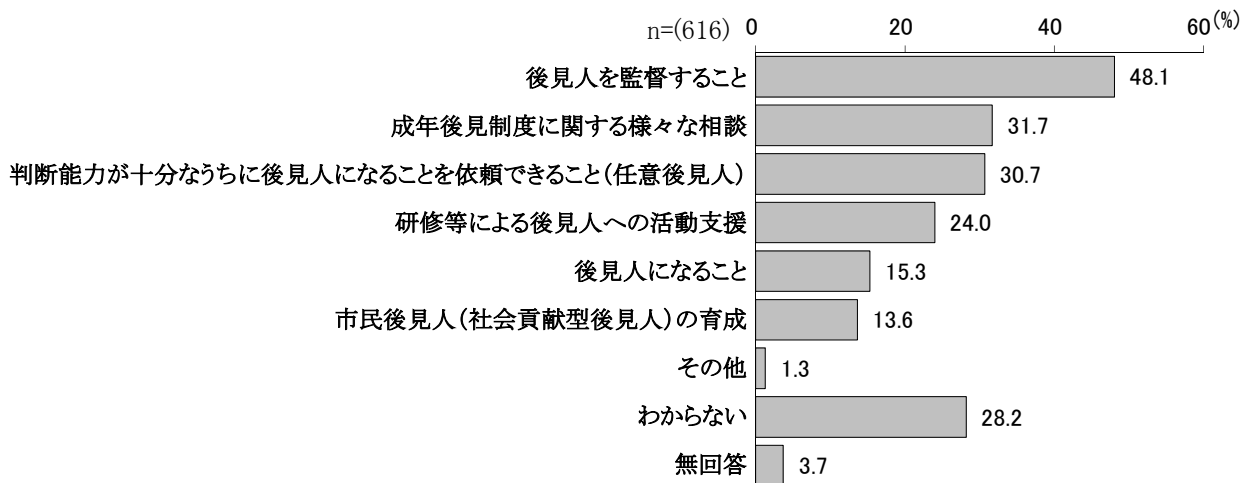


成年後見制度を利用する際、期待する役割をたずねたところ、「年金の受取りや公共料金の支払いなど生活費の管理」(69.3%)が7割弱と最も高く、次いで、「年金、保険など様々な行政手続」(61.9%)、「土地や建物などの重要な財産の管理」(58.8%)の順となっている。

③成年後見制度において、社会福祉協議会に期待する役割

問40 成年後見制度において、社会福祉協議会に期待する役割は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表267> 成年後見制度において、社会福祉協議会に期待する役割（複数回答）

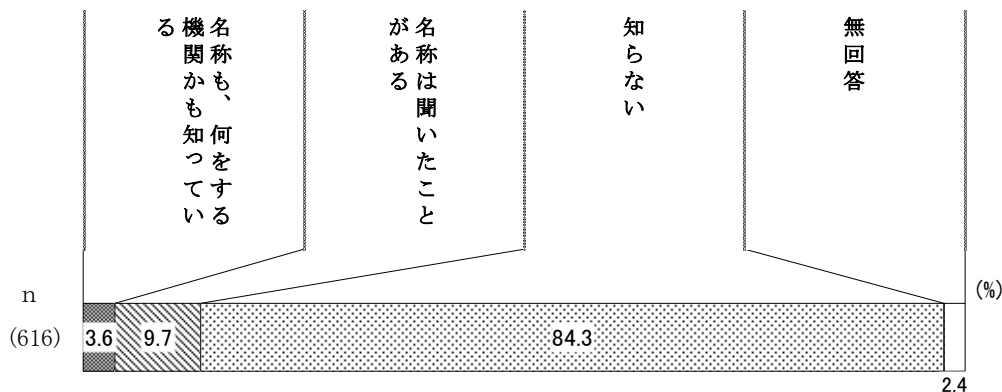


成年後見制度において、社会福祉協議会に期待する役割をたずねたところ、「後見人を監督すること」(48.1%)が5割近くで最も高く、次いで、「成年後見制度に関する様々な相談」(31.7%)が3割強、「判断能力が十分なうちに後見人になることを依頼できること(任意後見人)」(30.7%)が約3割の順となっている。

④新宿区成年後見センターの認知度

問41 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか。(1つに○)

<図表268> 新宿区成年後見センターの認知度



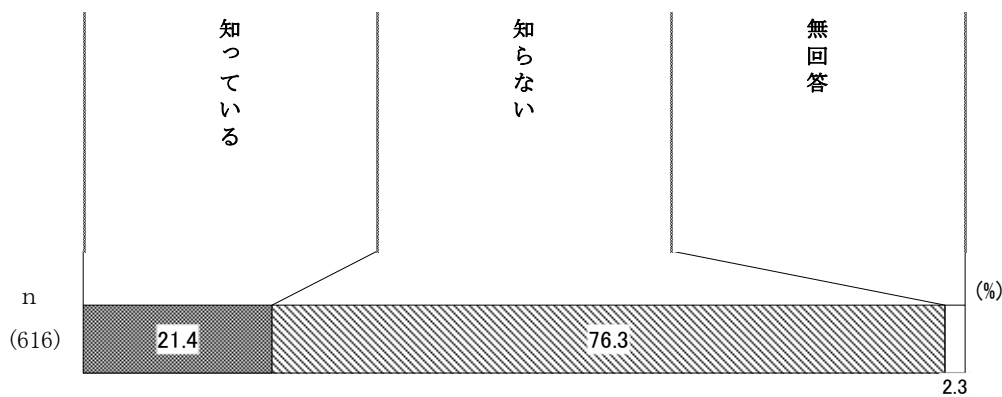
新宿区成年後見センターの認知度をたずねたところ、「名称も、何をする機関かも知っている」は3.6%、「名称は聞いたことがある」は9.7%と低くなっている。

(11) 健康・福祉サービスの相談窓口について

① 高齢者総合相談センターの名称の認知度

問42 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか。(1つに○)

<図表269> 高齢者総合相談センターの名称の認知度

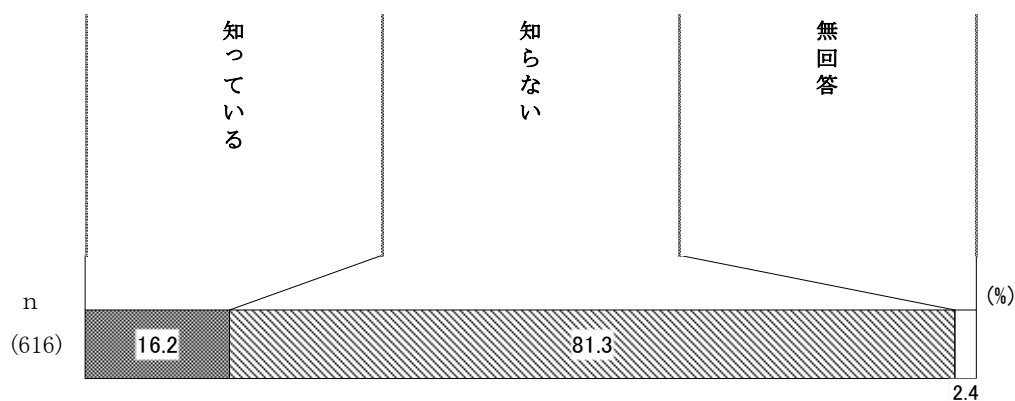


高齢者総合相談センターの名称の認知度をたずねたところ、「知っている」(21.4%)は2割強となっている。

② 高齢者総合相談センターの機能の認知度

問43 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか。(1つに○)

<図表270> 高齢者総合相談センターの機能の認知度

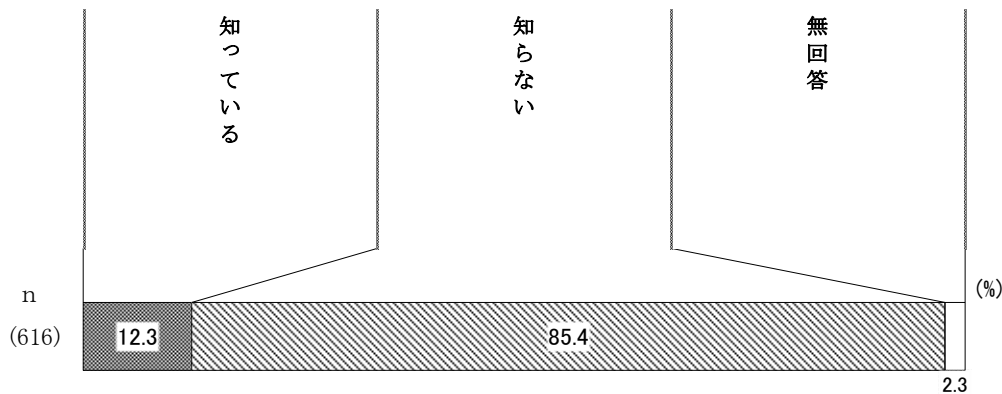


高齢者総合相談センターの機能の認知度をたずねたところ、「知っている」(16.2%)は1割台半ばを超えている。

③高齢者総合相談センターの所在地の認知度

問44 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか。(1つに〇)

<図表271> 高齢者総合相談センターの所在地の認知度

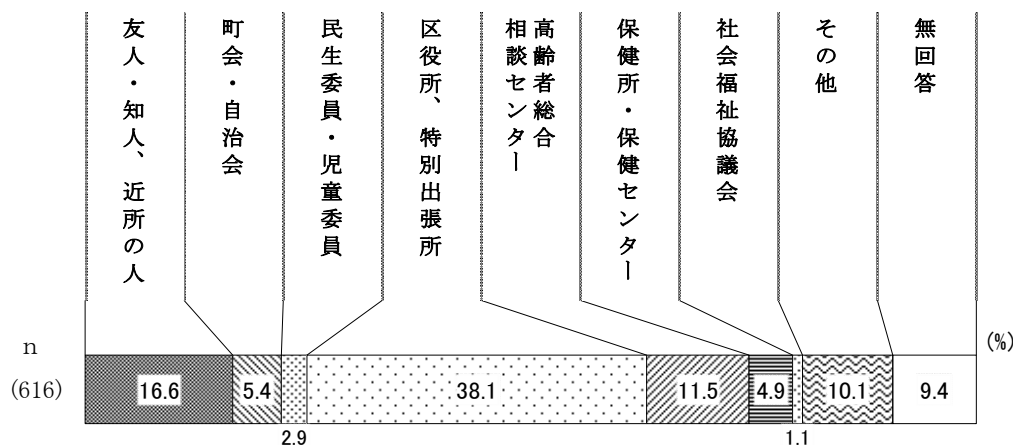


高齢者総合相談センターの所在地の認知度をたずねたところ、「知っている」(12.3%)は1割強となっている。

④地域で困っている高齢者を見かけた時の相談先

問45 あなたは、地域で困っている高齢者を見かけたり、異変に気付いたとき、どちらに相談しますか(1つに〇)

<図表272> 地域で困っている高齢者を見かけた時の相談先

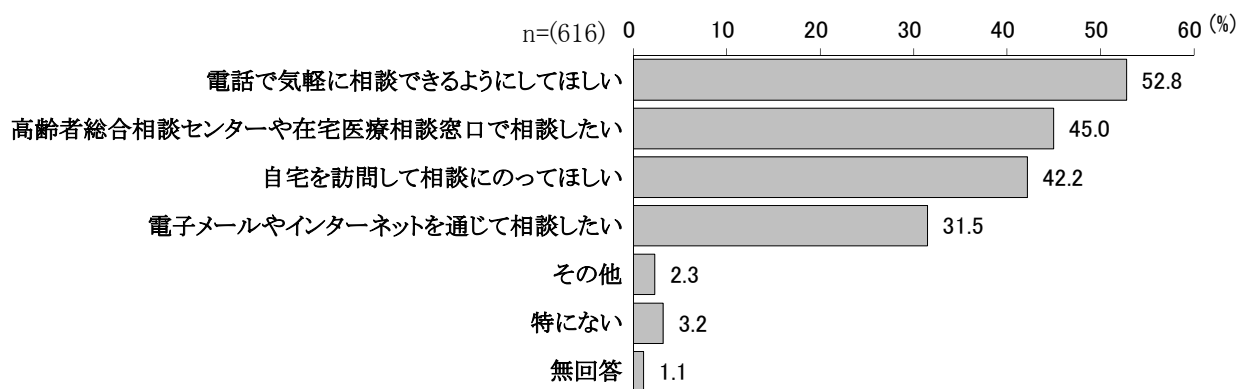


地域で困っている高齢者を見かけた時の相談先をたずねたところ、「区役所、特別出張所」(38.1%)が4割近くと最も高く、次いで、「友人・知人、近所の人」(16.6%)、「高齢者総合相談センター」(11.5%)の順となっている。

⑤在宅医療や介護が必要になった場合に望む相談体制

問46 あなたに在宅医療や介護が必要になった場合、どのような相談体制を望みますか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表273> 在宅医療や介護が必要になった場合に望む相談体制 (複数回答)



在宅医療や介護が必要になった場合に望む相談体制についてたずねたところ、「電話で気軽に相談できるようにしてほしい」(52.8%)が5割強と最も高く、次いで、「高齢者総合相談センターや在宅医療相談窓口で相談したい」(45.0%)、「自宅を訪問して相談にのってほしい」(42.2%)の順となっている。

⑥高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問47 最後に、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、140人からの回答があった。回答の多かった内容は、「情報提供・相談について」「施策全般について」「介護保険・サービスについて」の順であった。

各事項（その他除く）について、回答の中からいくつかの意見を示す。

情報提供・相談について	施策全般について	介護保険・サービスについて	アンケートについて	人材・ボランティアについて	施設等について	住まいについて	就労・地域活動について	健康・介護予防について	認知症について	医療・保健について	家族等介護者のことについて	その他
40	35	31	13	12	12	8	6	5	4	4	3	9

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【情報提供・相談について】

- ・高齢になった時に相談する窓口を区民に通知してほしい。
- ・サービスの一環として、この様な時の窓口はこちらにあるという事をもっと知らせてほしい。

【施策全般について】

- ・高齢者の多くは経済的不安を持っているので、なるべく負担の少ない方向に進めてほしい。
- ・高齢者が支援を受けるためには、あまりにも手続きがめんどろで、煩雑すぎる、気軽にと言うが、気軽に受けられる制度ではないと思う。

【介護保険・サービスについて】

- ・介護保険のサービスは充実して欲しいが、介護保険料の増額は年収に応じて控えてほしい。
- ・介護は本当に大変なので、国、区、町、ボランティアぐるみでサポートしていく体制が必要である。

【アンケートについて】

- ・質問の数が多過ぎる。
- ・アンケートが長すぎて難しかった。

【人材・ボランティアについて】

- ・ボランティア活動にも興味があるので、勉強会なども土日を含む日程で開催してほしい。
- ・高齢者が増加するにあたり、地域住民を戦力とお考えのようなアンケートだったが、そんなに簡単ではないと思う。

【施設等について】

- ・病気になってからのリハビリセンターを増やしてほしい。
- ・高齢者と子どもが身近に関われる施設を作してほしい。

【住まいについて】

- ・老人や障害者が安心してらせるような町づくり。

【就労・地域活動について】

- ・小さな近隣のサポートも必要。一人暮らし、老老介護など、見守りを小さな町内会での協力が必要だと思う。

【健康・介護予防について】

- ・健康的で生産的な老後のため、ジムの利用補助とかあればうれしい。

【認知症について】

- ・若年性認知症や、2025年問題で超高齢者社会になってゆく日本。地域の“いきいき体操”をもっと広め、筋トレ強化を目指し、なるべく自分の脚で歩行できるようになれば明るい日常生活を送れると思う。

【医療・保健について】

- ・高齢者が十分な医療が受けられる。

【家族等介護者のことについて】

- ・介護する人は24時間気が安まらないので、具体的なトラブル対処法などを実例をあげて、細かく冊子にして配ってほしい。